



宮崎市子ども医療費助成制度あり方検討会 資料集

SMILE
MIYAZAKI

令和7年2月10日 時点版

目次

1	宮崎市子ども医療費助成制度の概要	P3
2	子ども医療費助成制度の実施状況	P4
(1)	子ども医療費に対する援助の実施状況	P4
3	宮崎市子ども医療費助成制度の現況等	P12
(1)	受給資格者数	P12
(2)	医療費助成件数	P15
(3)	医療費助成額	P19
(4)	減額調整措置の影響	P23
(5)	受給資格者当たりの医療費助成件数	P24
(6)	制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化 (宮崎市国保分)・受診者当たりの日数(月平均)	P28
(7)	制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化 (宮崎市国保分)・利用人数(月平均)	P31
(8)	制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化 (宮崎市国保分)・重複受診・頻回受診・重複服薬	P35
(9)	レセプト当たりの自己負担した額(宮崎市国保分)	P37
4	宮崎市の医療資源の現況等	P39
(1)	人口10万対医療施設従事者	P39
(2)	医師、薬剤師の平均年齢	P40
5	その他	P41
(1)	抗菌薬使用状況(DID)	P41
(2)	宮崎市夜間急病センター(小児科)	P42
(3)	宮崎県子ども救急医療電話相談(#8000)	P43

1 宮崎市子ども医療費助成制度の概要

①目的

- ・子育て世帯の経済的負担の軽減
- ・早期受診による重症化の予防

②医療費助成制度の変遷

- ・乳幼児の健全な発育の促進を図るために、昭和49年度から県の補助事業として乳幼児医療費助成制度がスタートしました。
- ・平成24年1月診療分からは、本制度を拡充（市単独事業）し、小学校就学前までの全ての乳幼児を対象として、医療費の自己負担を無料化しました。
- ・令和2年4月診療分からは、対象を中学卒業まで（15歳に達する日以降、最初の3月31日まで）に拡大しました（一部自己負担あり）。

③医療費助成の内容

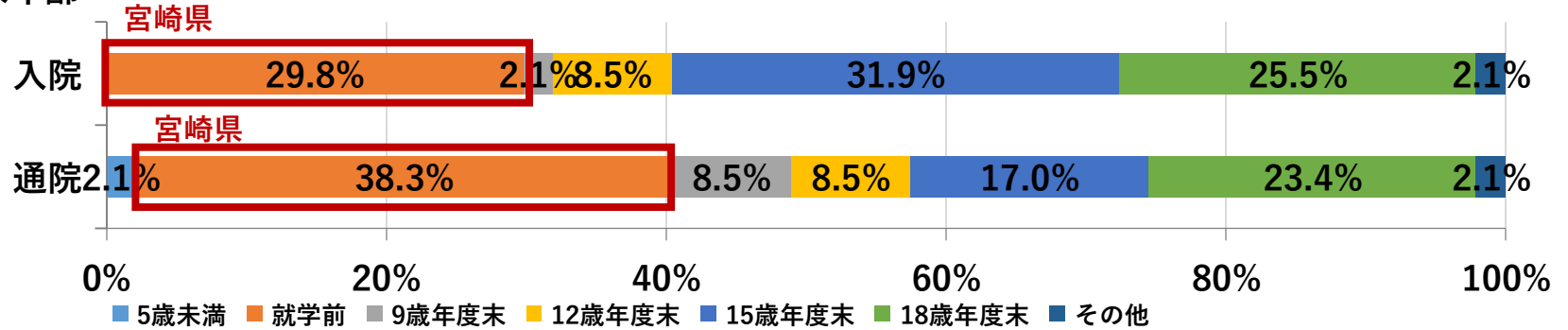
対象年齢	入院	外来(通院)	調剤
就学前 (0-6歳年度末)	無料	無料	無料
小中学生 (7-15歳年度末)	無料	1医療機関あたり月額200円	無料

2 子ども医療費助成制度の実施状況

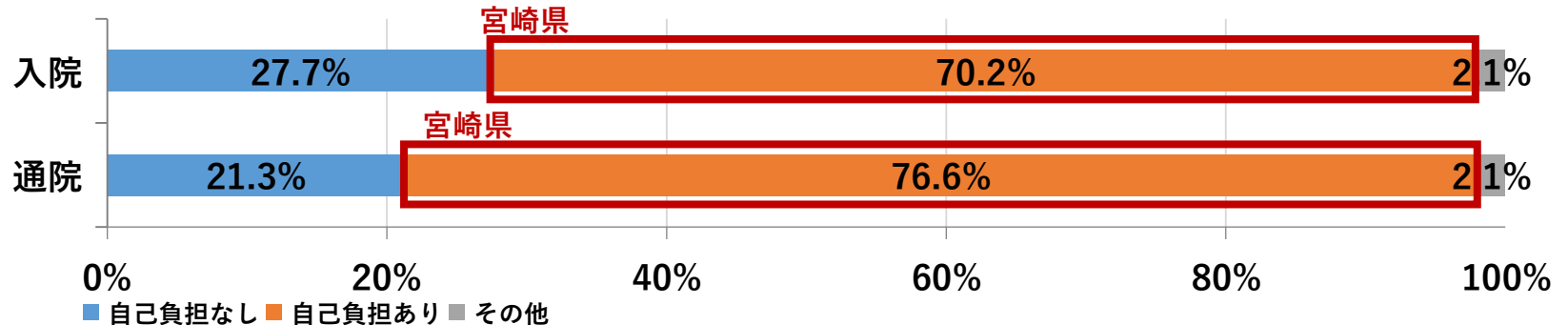
(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

①都道府県(47都道府県)

・対象年齢



・一部自己負担

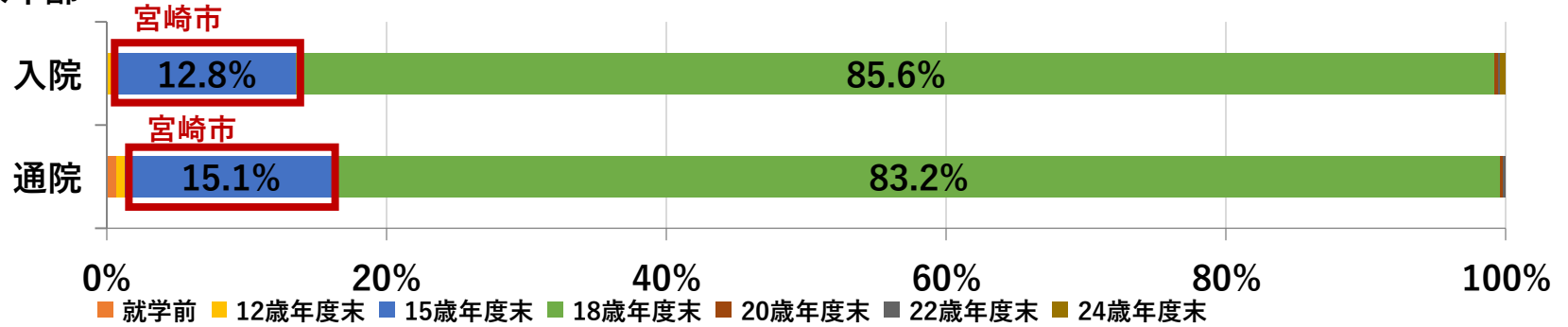


2 子ども医療費助成制度の実施状況

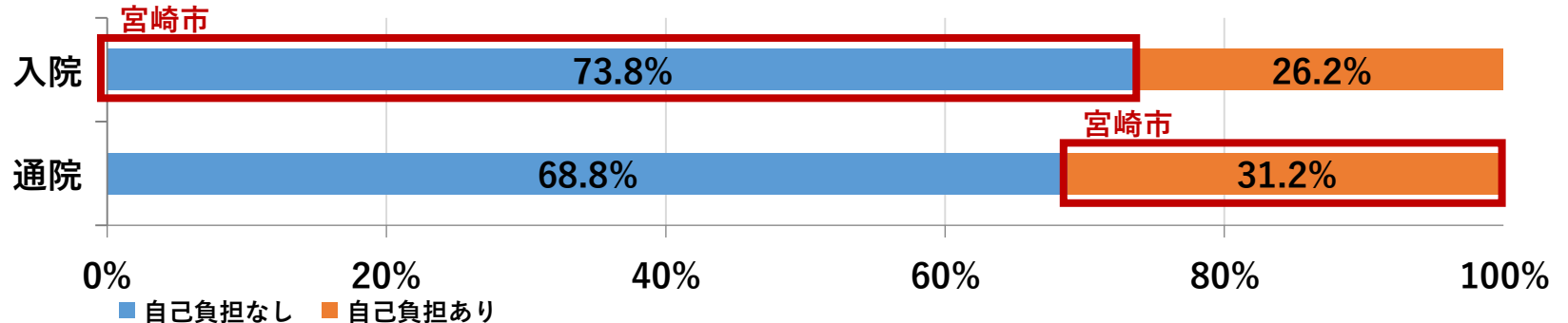
(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

②市区町村(1,741市区町村)

・対象年齢



・一部自己負担

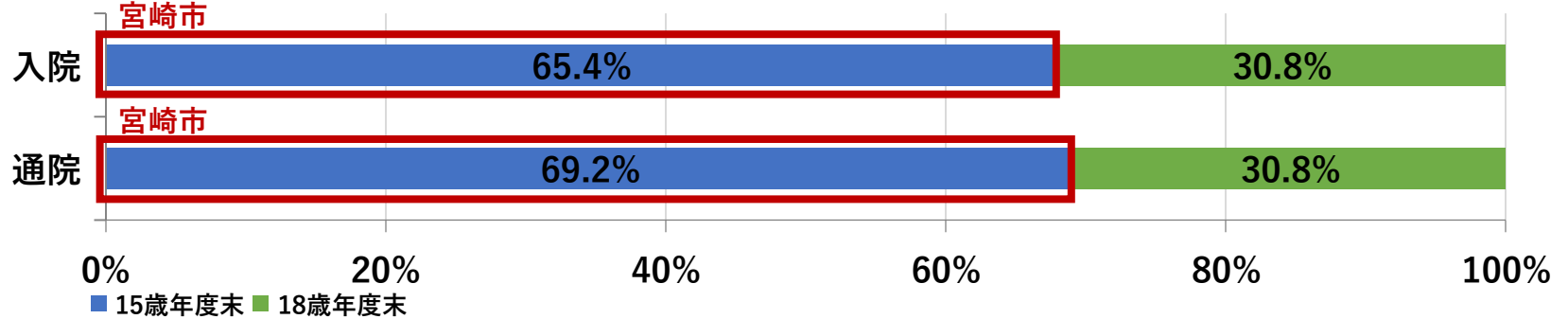


2 子ども医療費助成制度の実施状況

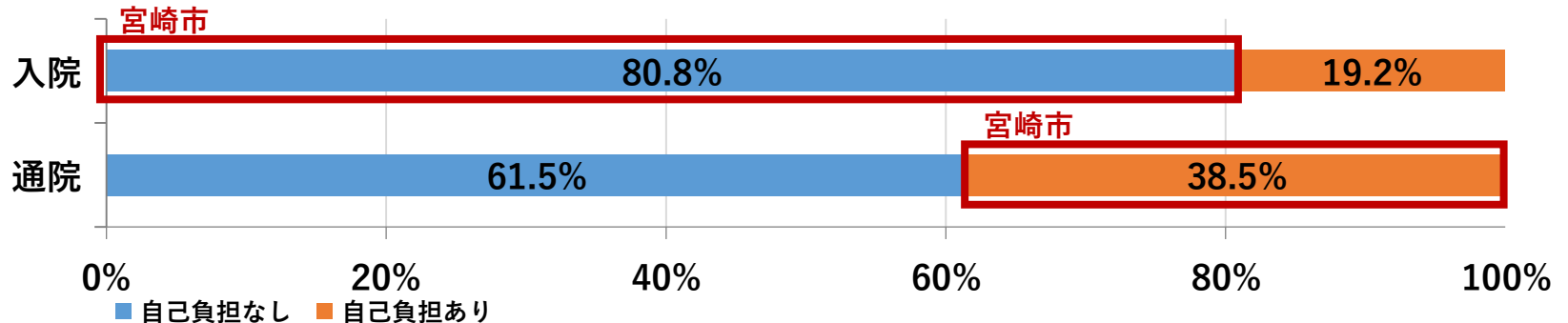
(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

③宮崎県内市町村(26市町村)

・対象年齢



・一部自己負担

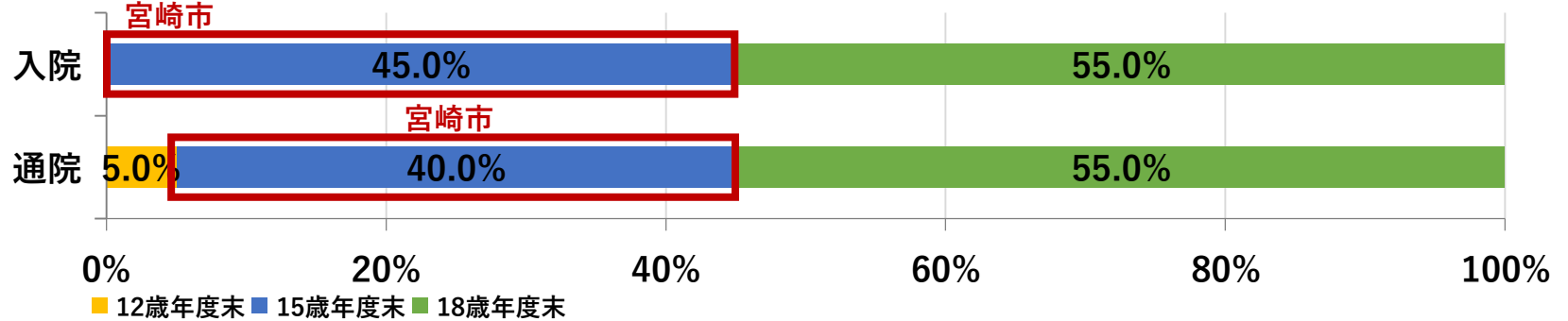


2 子ども医療費助成制度の実施状況

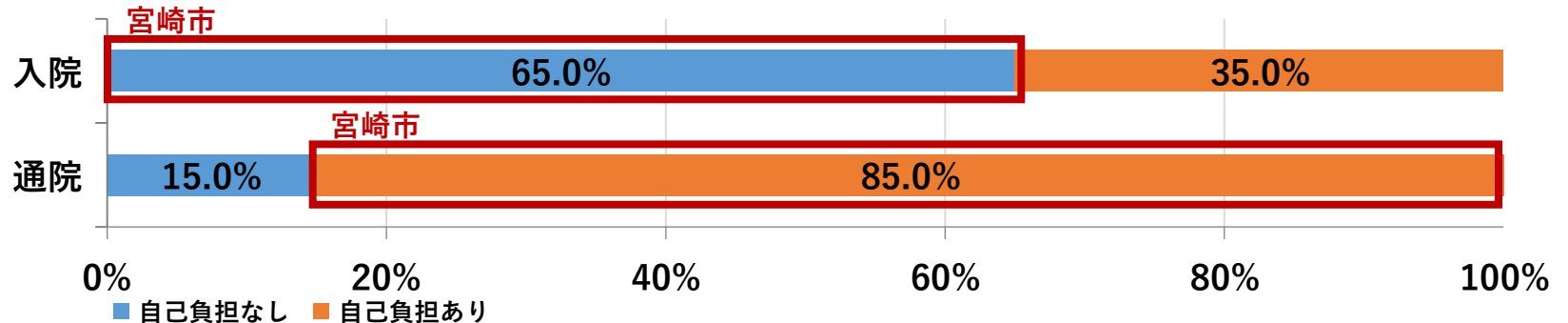
(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

④指定都市(20市)

・対象年齢



・一部自己負担

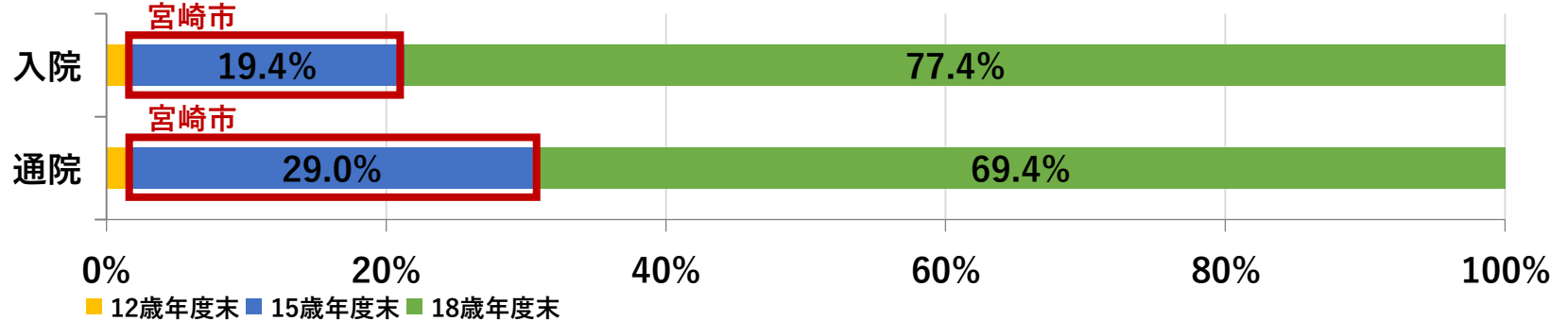


2 子ども医療費助成制度の実施状況

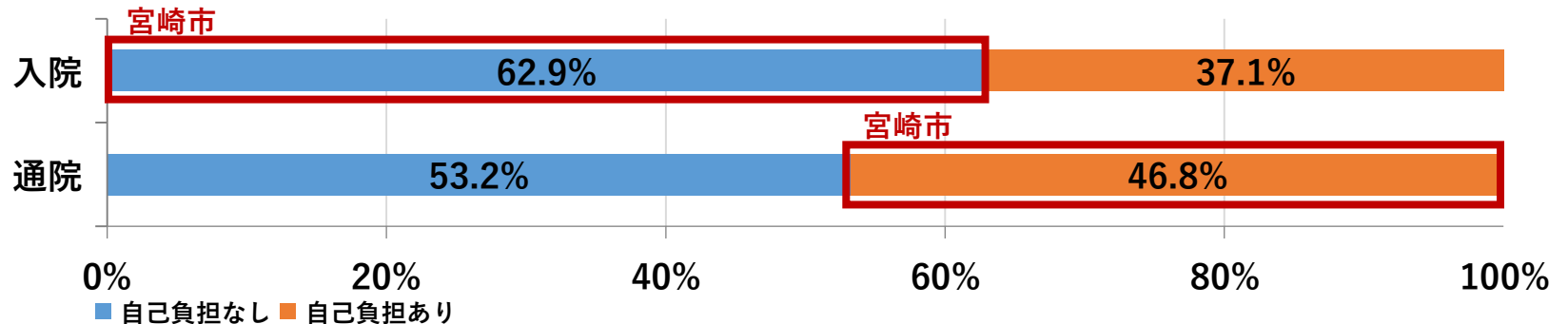
(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

⑤中核市(62市)

・対象年齢



・一部自己負担

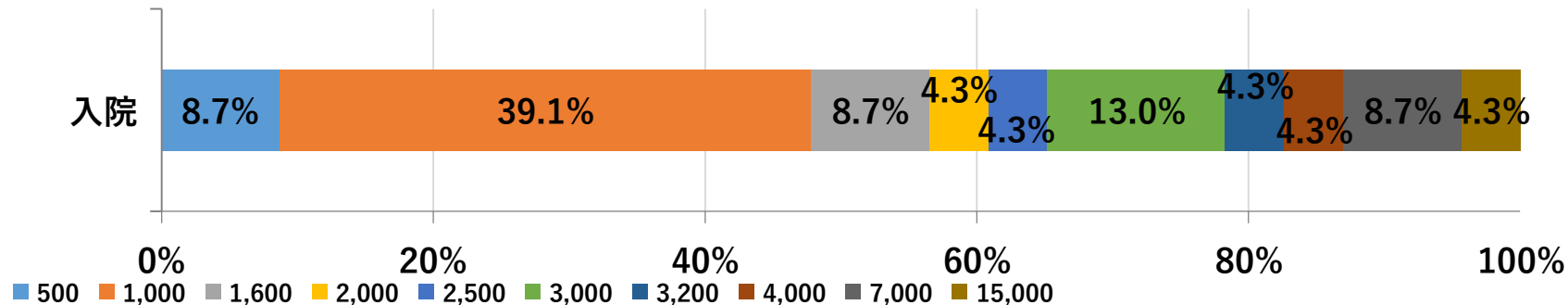


2 子ども医療費助成制度の実施状況

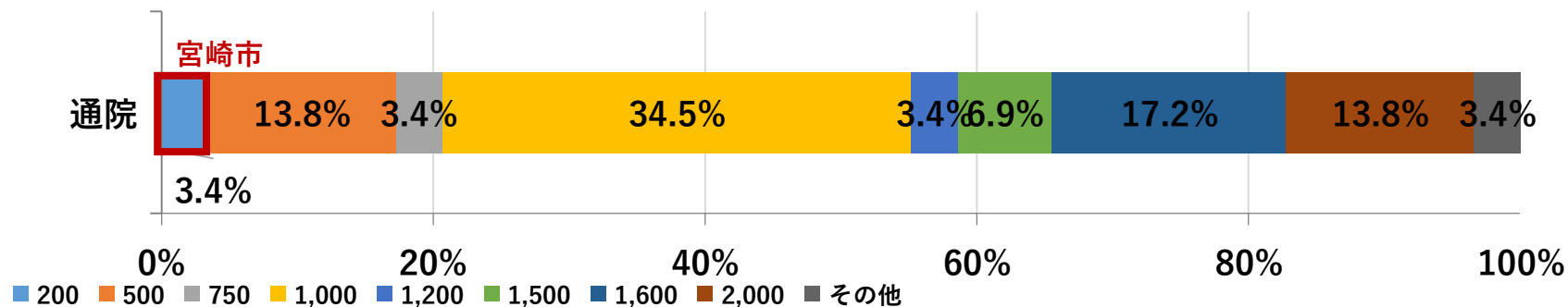
(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

⑤中核市(62市)

- ・一部自己負担(入院の上限額・n=23)



- ・一部自己負担(通院の上限額・n=29)



2 子ども医療費助成制度の実施状況

(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

⑤中核市(62市)

・一部自己負担(入院、通院のいずれかに自己負担を設定する29市の詳細)

自治体名	入院	通院・調剤	自治体名	入院	通院・調剤
盛岡市	2,500円/(月・医療機関)	750円/(月・医療機関)	豊中市 吹田市 高槻市 枚方市 八尾市 寝屋川市 東大阪市	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月3日以降は自己負担なし	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月2日以降は自己負担なし ※調剤は自己負担なし
秋田市	1,000円/(月・医療機関)	1,000円/(月・医療機関)			
水戸市	300円/(日・医療機関) ※同一医療機関上限3,000円/月	600円/(日・医療機関) ※同一医療機関上限3回以降は自己負担なし ※調剤は自己負担なし			
船橋市 柏市	300円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月11日以降は自己負担なし	300円/(回・医療機関) ※同一医療機関、6回以降は自己負担なし ※調剤は自己負担なし			
八王子市	自己負担なし	200円/(日・医療機関) ※調剤は自己負担なし			
金沢市	自己負担なし	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関上限1,000円/月 ※調剤は自己負担なし	西宮市	1割負担 ※上限3,200円/月	800円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月2日以降は自己負担なし
福井市	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関上限4,000円/月	500円/(月・医療機関) ※調剤は自己負担なし	奈良市	1,000円/(月・医療機関) ※14日未満の場合、500円/(月・医療機関)	乳幼児500円/(月・医療機関) 小学生以上1,000円/(月・医療機関) ※調剤は自己負担なし
長野市 松本市	500円/(月・医療機関)	500円/(月・医療機関)	呉市 福山市	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月15日以降は自己負担なし	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月5回以降は自己負担なし
大津市	1,000円/(月・医療機関) ※同一医療機関上限14,000円/月	500円/(月・医療機関) ※調剤は自己負担なし			

2 子ども医療費助成制度の実施状況

(1) 子ども医療費に対する援助の実施状況

⑤中核市(62市)

- 一部自己負担(入院、通院のいずれかに自己負担を設定する29市の詳細)

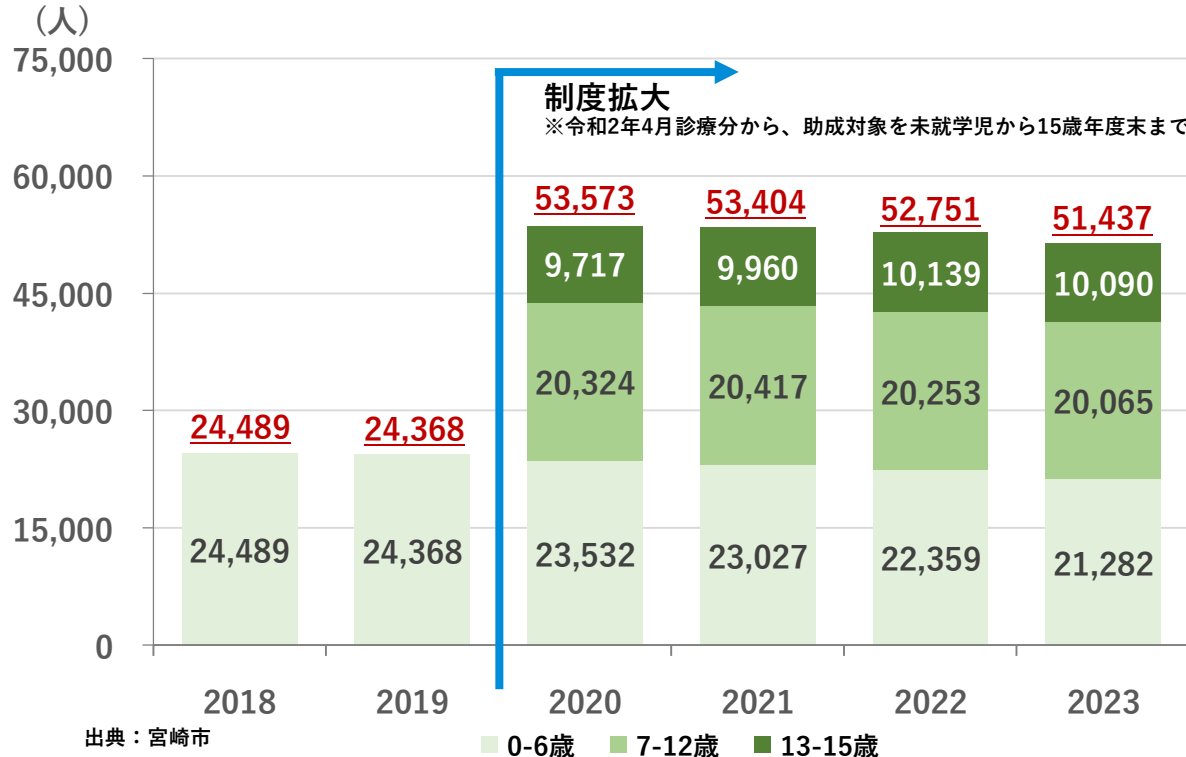
自治体名	入院	通院・調剤
久留米市	自己負担なし	未就学児 自己負担なし 小学生 1,000円/(月・医療機関) 中学生 1,600円/(月・医療機関) ※調剤は自己負担なし
長崎市 佐世保市	800円/(日・医療機関) ※同一医療機関上限 1,600円/月	800円/(日・医療機関) ※同一医療機関上限 1,600円/月 ※調剤は自己負担なし
大分市	自己負担なし	500円/(日・医療機関) ※同一医療機関、同月5回以降は自己負担なし ※調剤は自己負担なし
宮崎市	自己負担なし	200円/(月・医療機関) ※調剤は自己負担なし
鹿児島市	3歳未満及び市町村民税非課税世帯の子どもは入院・通院・調剤ともに自己負担なし 上記以外の世帯の子どもは入院・通院・調剤を合わせて2,000円/月を償還払い	

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(1) 受給資格者数

①受給資格者数の推移

- ・ 12歳年度末までの人口は減少傾向にあります。
- ・ 13歳年度末から15歳年度末までの人口は2022年をピークに、減少傾向に転じています。



【2020年比】

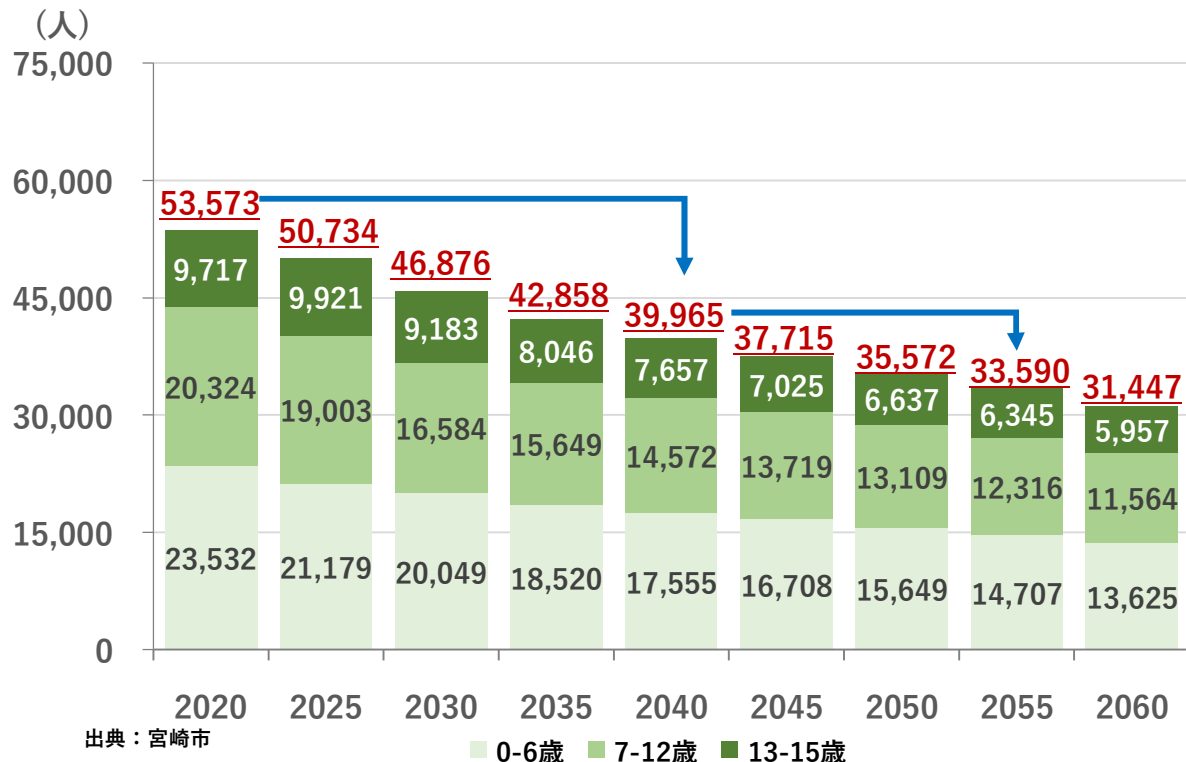
対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	△505人 △2.1%	93人 0.5%	243人 2.5%
2022年	△1,173人 △5.0	△71人 △1.3%	422人 4.3%
2023年	△2,250人 △9.6%	△259人 △1.3%	373人 3.9%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(1) 受給資格者数

②将来推計

- ・第六次宮崎市総合計画基本計画(案)の人口増減率から各年代の受給資格者数を推計すると、全ての年代で減少傾向が続き、15年度末までの受給資格者数は40年に約40千人、55年に約35千人を下回る見込みとなっています。



【2020年比】

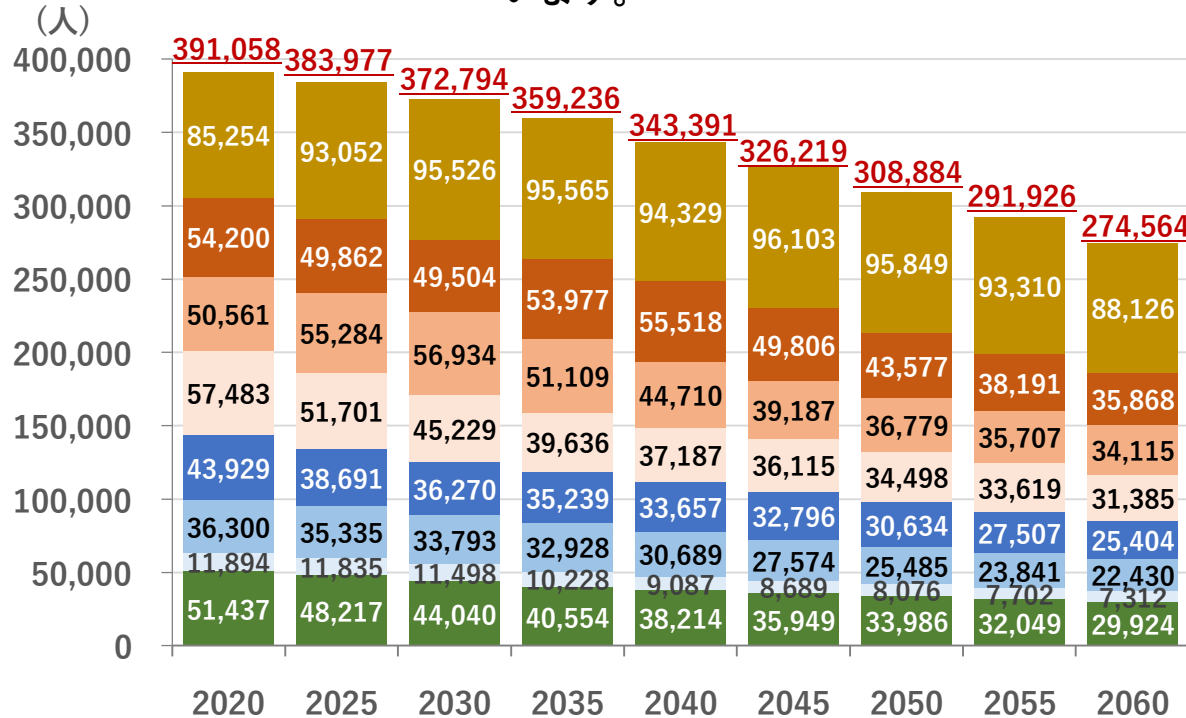
対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2030年	△3,483人 △14.8%	△3,740人 △18.4%	△534人 △5.5%
2040年	△5,977人 △25.4%	△5,752人 △28.3%	△2,060人 △21.2%
2050年	△7,883人 △33.5%	△7,215人 △35.5%	△3,080人 △31.7%
2060年	△9,907人 △42.1%	△8,760人 △43.1%	△3,760人 △38.7%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(1) 受給資格者数

③他の世代との比較

- ・第六次宮崎市総合計画基本計画(案)によると20-60代の人口は、今後も減少傾向が続き、40年に約300千人、60年に240千人を下回る見込みとなっています。
- ・70代以上の人口は、増加傾向が続き、30年に約950千人を上回る見込みとなっています。



【2020年比】

対象年齢	0-15歳	20-60代	70代以上
2030年	△7,397人 △14.4%	△20,743人 △8.6%	10,272人 12.0%
2040年	△13,223人 △25.7%	△40,712人 △16.8%	9,075人 10.6%
2050年	△17,451人 △33.9%	△71,500人 △29.5%	10,595人 12.4%
2060年	△21,513人 △41.8%	△93,271人 △38.5%	2,872人 3.4%

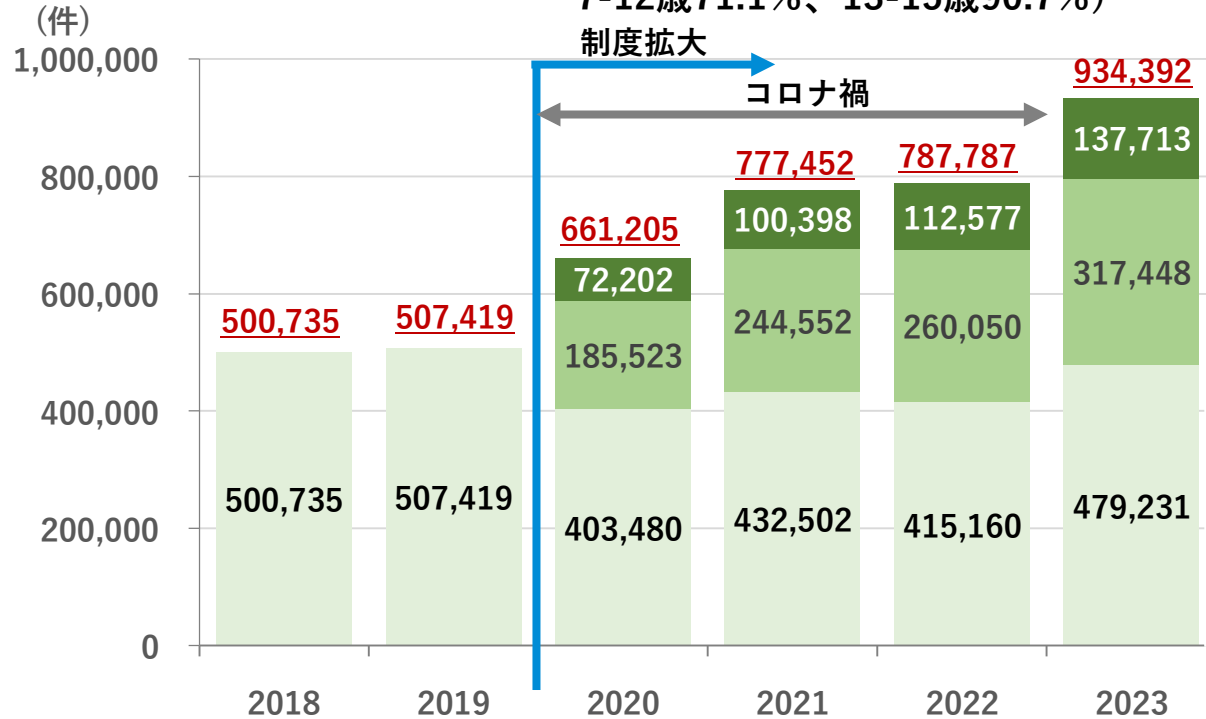
出典：宮崎市

0-15歳 16-18歳 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(2) 医療費助成件数

- ① 推移【入院・外来・調剤】
- ・0-6歳の助成件数は19年から20年に約100千件減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率18.8%)
 - ・7-12歳、13-15歳の助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳71.1%、13-15歳90.7%)



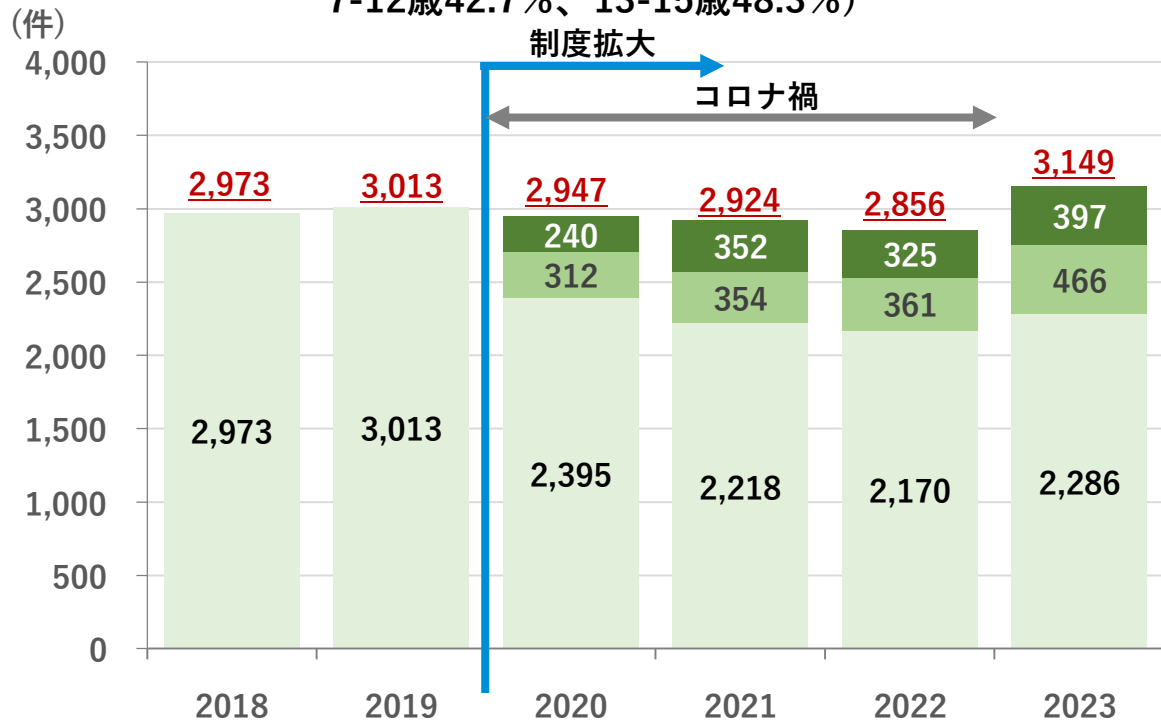
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	29,022件 7.2%	59,029件 31.8%	28,196件 39.1%
2022年	11,680件 2.9%	74,527件 40.2%	40,375件 55.9%
2023年	75,751件 18.8%	131,925件 71.1%	65,511件 90.7%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(2) 医療費助成件数

- ②推移【入院】・0-6歳の助成件数は19年から20年に約600件減少し、20年以降はその水準で推移しています。(23年の対20年比増減率△5.0%)
- ・7-12歳、13-15歳の助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳42.7%、13-15歳48.3%)



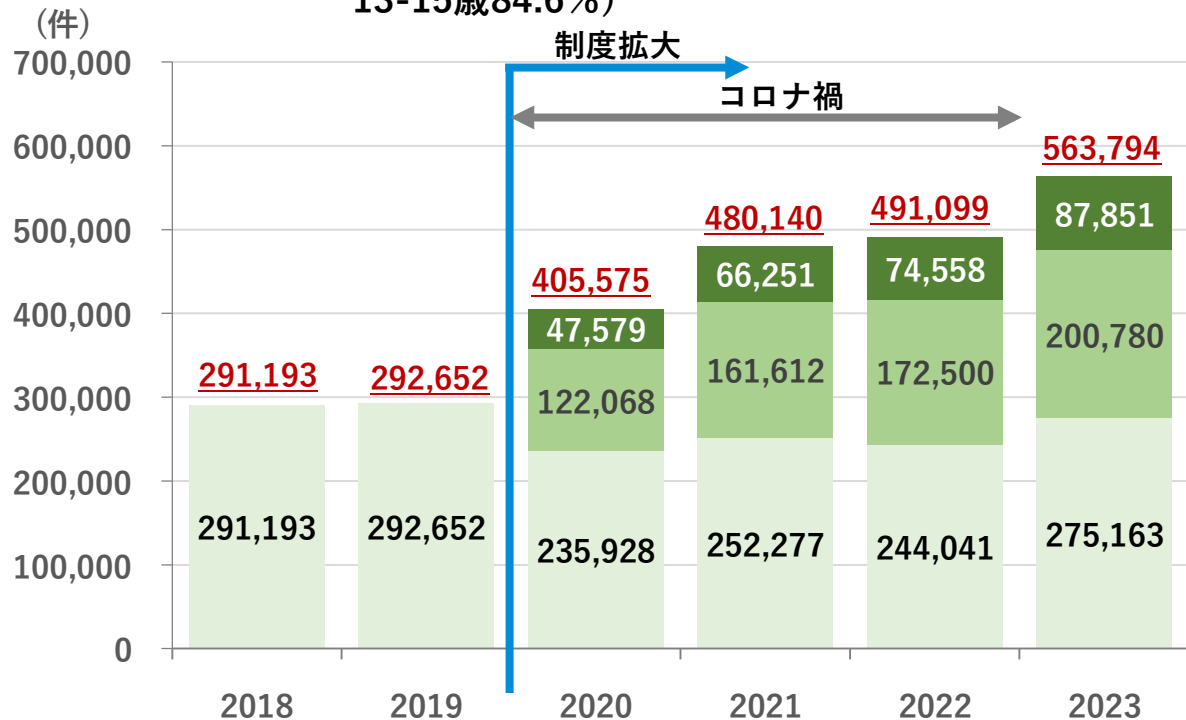
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	△177件 △7.4%	42人 13.5%	112人 46.7%
2022年	△225件 △10.1%	49人 13.8%	85人 24.1%
2023年	△109件 △5.0%	154人 42.7%	157人 48.3%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(2) 医療費助成件数

- ③推移【外来】・0-6歳の助成件数は19年から20年に約60千件減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率16.6%)
- ・7-12歳、13-15歳の助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳4.5%、13-15歳84.6%)



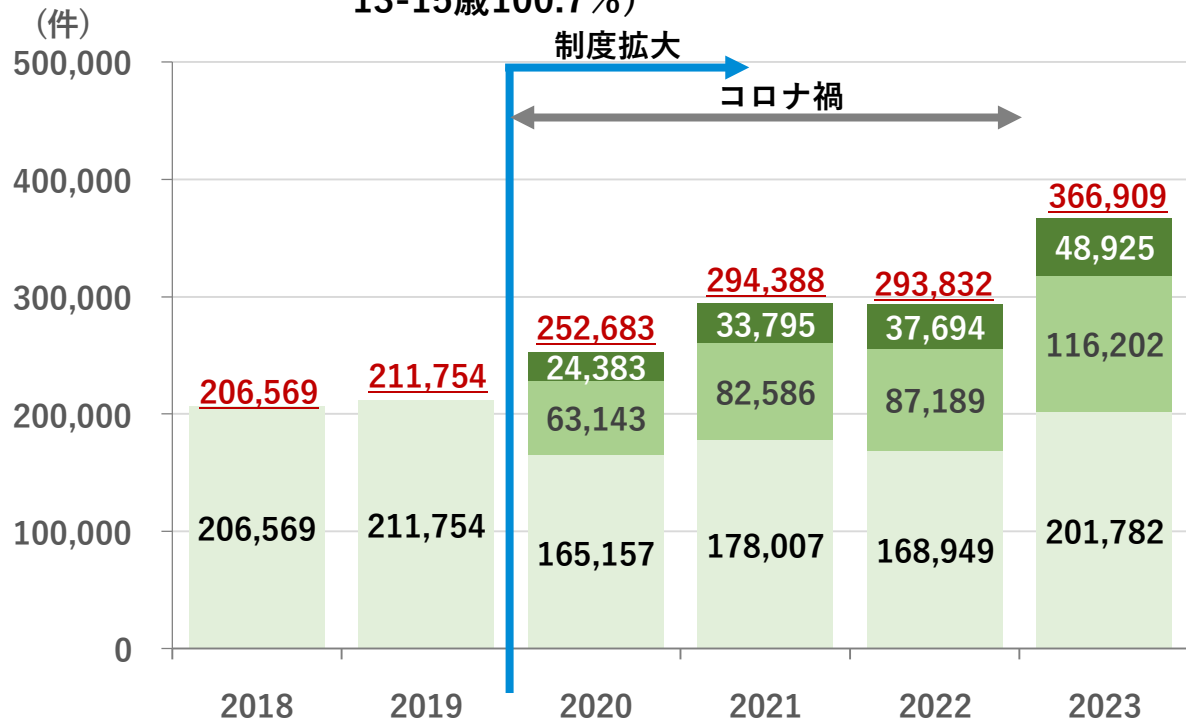
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	16,349件 6.9%	39,544件 32.4%	18,672件 39.2%
2022年	8,113件 3.4%	50,432件 41.3%	26,979件 56.7%
2023年	39,235件 16.6%	78,712件 64.5%	40,272件 84.6%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(2) 医療費助成件数

- ③推移【調剤】・0-6歳の助成件数は19年から20年に約47千件減少しましたが、その後は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率22.2%)
- ・7-12歳、13-15歳の助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳4.0%、13-15歳100.7%)



【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	12,850件 7.8%	19,443件 30.8%	9,412件 38.6%
2022年	3,972件 2.3%	24,046件 38.1%	13,311件 54.6%
2023年	36,625件 22.2%	53,059件 84.0%	24,542件 100.7%

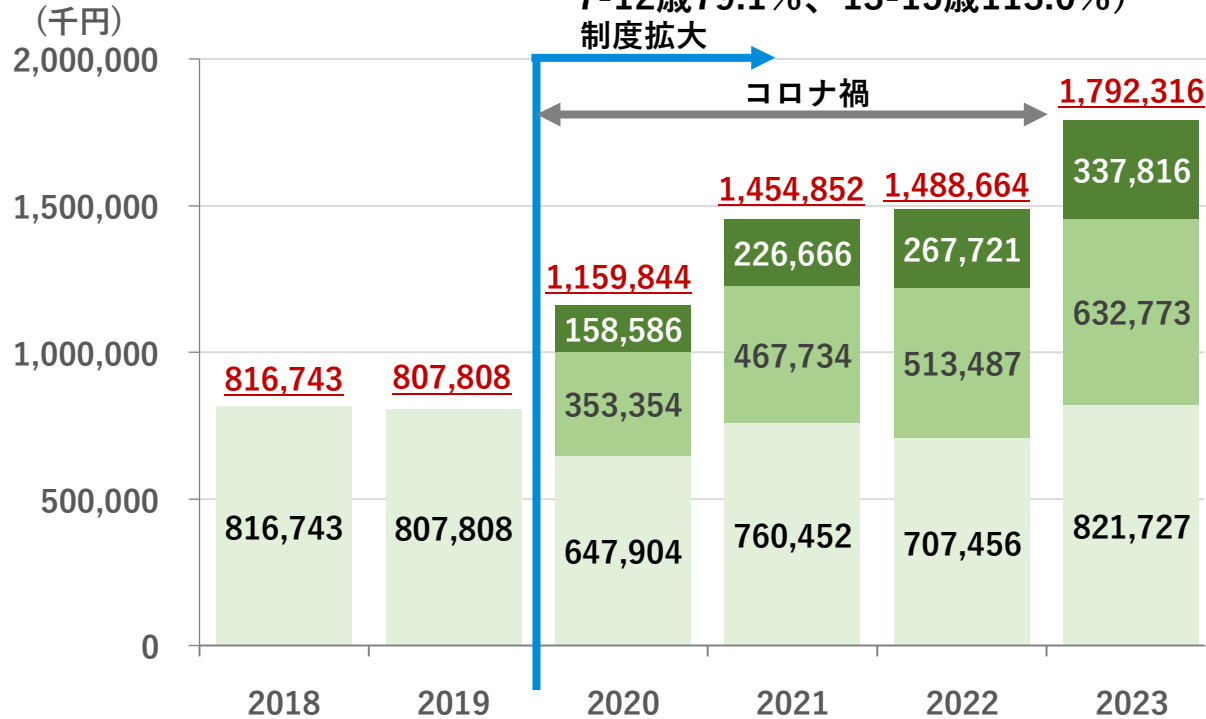
3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(3) 医療費助成額

- ①推移【入院・外来・調剤】
 - ・0-6歳の助成額は19年から20年に約160百万円減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率26.8%)
 - ・7-12歳、13-15歳の助成額は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳79.1%、13-15歳113.0%)

制度拡大

コロナ禍



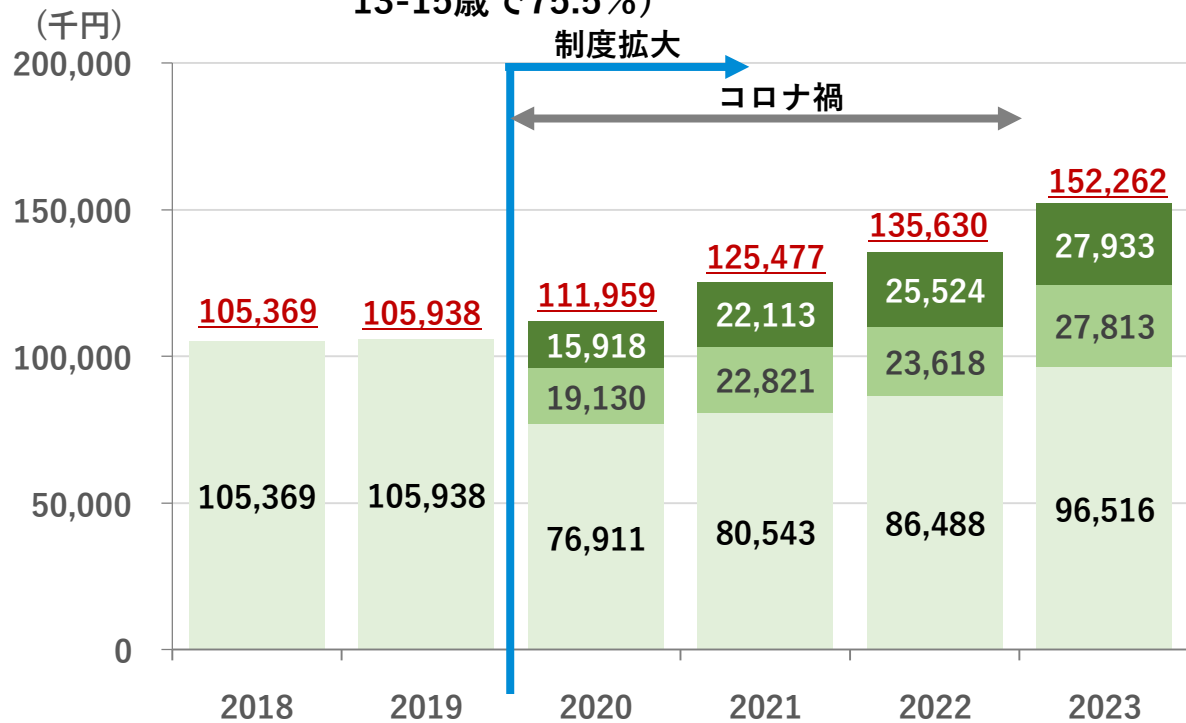
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	112,548千円 17.4%	114,380千円 32.4%	68,080千円 42.9%
2022年	59,552千円 9.2%	160,133千円 45.3%	109,135千円 68.8%
2023年	178,823千円 26.8%	279,419千円 79.1%	179,230千円 113.0%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(3) 医療費助成額

- ②推移【入院】・0-6歳の助成額は19年から20年に約29百万円減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率25.5%)
- ・7-12歳、13-15歳の助成額は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳45.4%、13-15歳で75.5%)



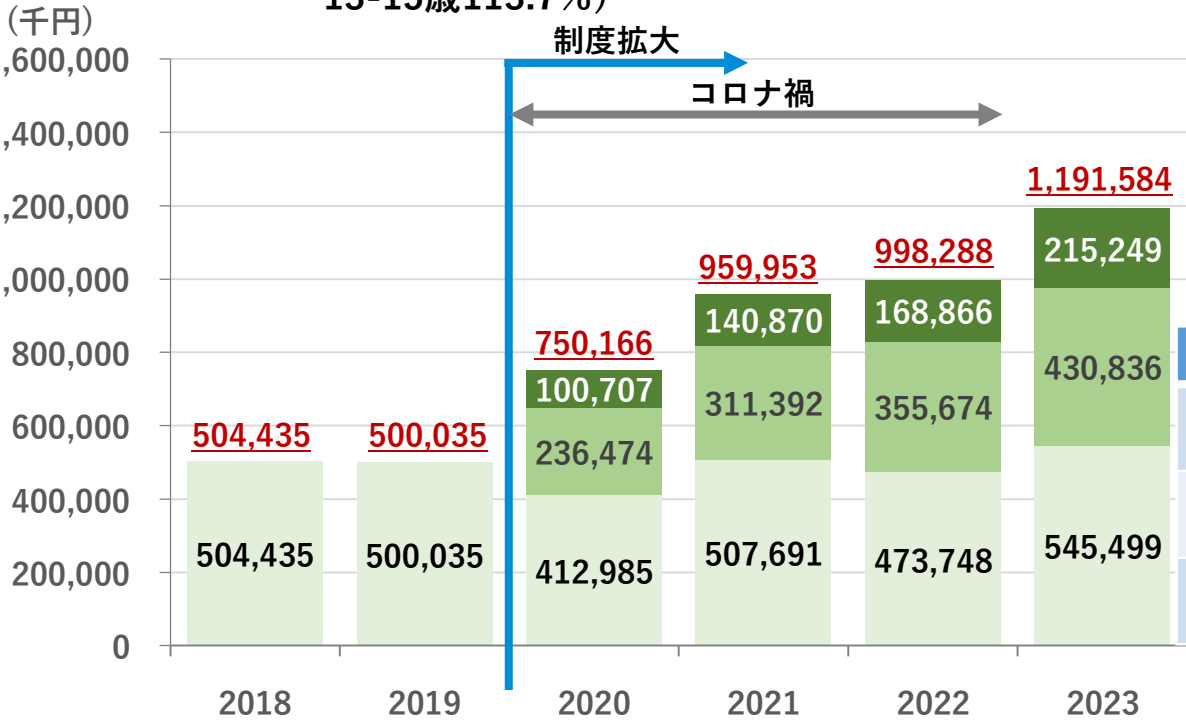
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	3,632千円 4.7%	3,691千円 19.3%	6,195千円 38.9%
2022年	9,577千円 12.5%	4,488千円 23.5%	9,606千円 60.3%
2023年	19,605千円 25.5%	8,683千円 45.4%	12,015千円 75.5%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(3) 医療費助成額

- ③推移【外来】・0-6歳の助成額は19年から20年に約87百万円減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率32.1%)
- ・7-12歳、13-15歳の助成額は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳82.2%、13-15歳113.7%)



【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	94,706千円 22.9%	74,918千円 31.7%	40,163千円 39.9%
2022年	60,763千円 14.7%	119,200千円 50.4%	68,159千円 67.7%
2023年	132,514千円 32.1%	194,362千円 82.2%	114,542千円 113.7%

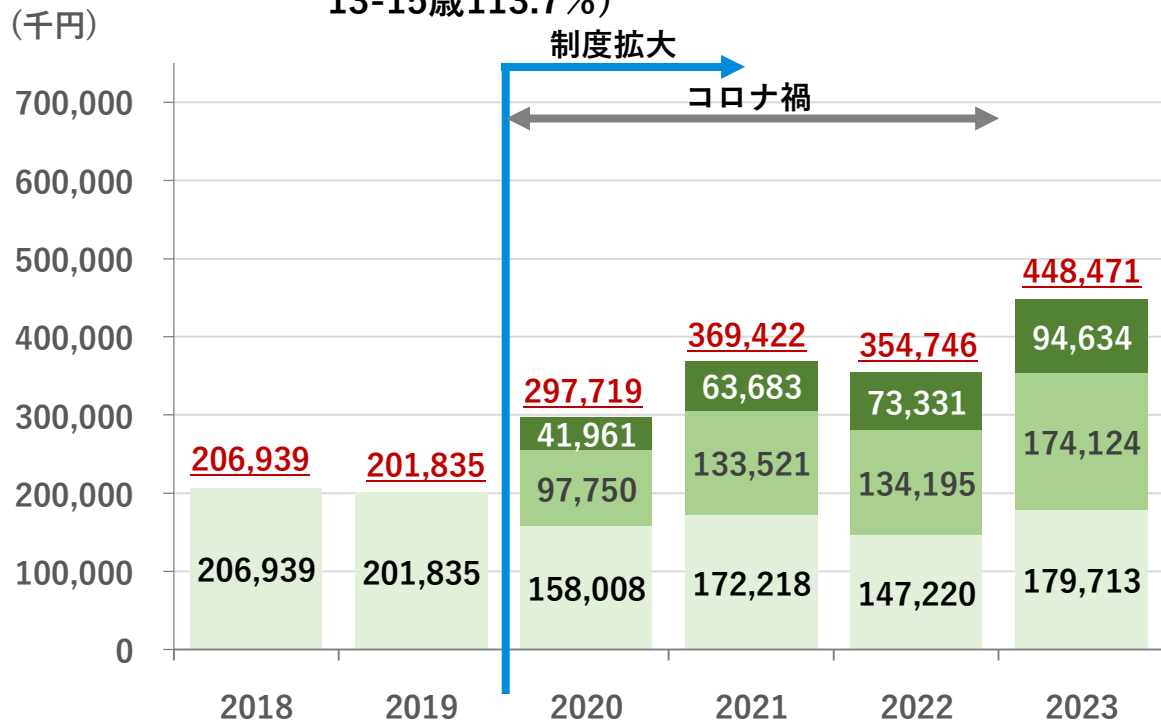
出典：宮崎市

0-6歳 7-12歳 13-15歳

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(3) 医療費助成額

- ④推移【調剤】・0-6歳の助成額は19年から20年に約87百万円減少、21年から22年に約25百万円減少しましたが、22年から23年では約約32百万円増加しています。(23年の対20年比増減率13.7%)
- ・7-12歳、13-15歳の助成額は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳78.1%、13-15歳113.7%)



【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	14,210千円 9.0%	35,771千円 36.6%	21,722千円 51.8%
2022年	△10,788千円 △6.8%	36,445千円 37.3%	31,370千円 74.8%
2023年	21,705千円 13.7%	76,374千円 78.1%	52,673千円 125.5%

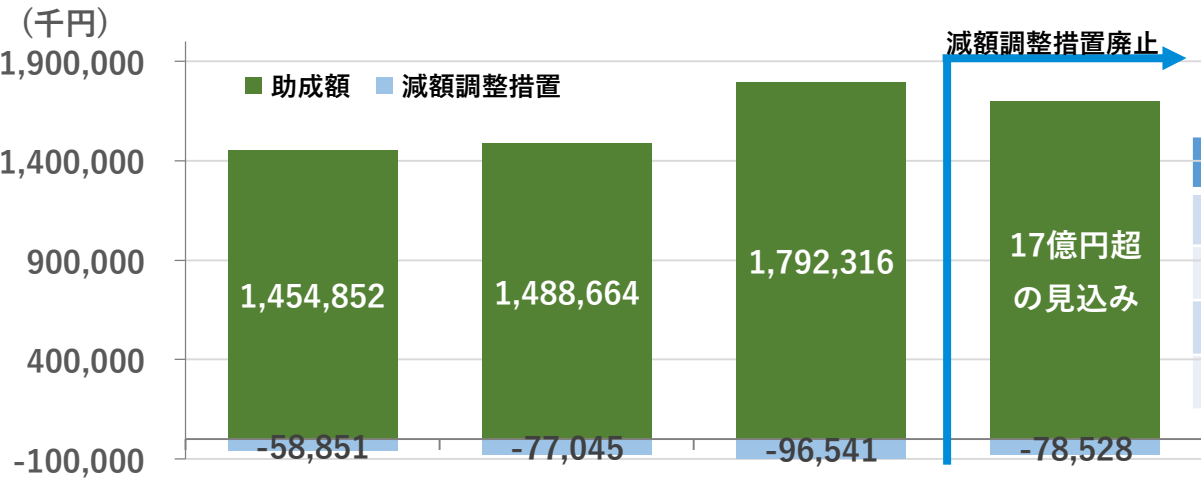
3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(4) 減額調整措置の影響

- ・令和6年度から18歳までの医療費助成に係る減額調整措置が廃止され、本市の国民健康保険の国庫負担の影響額は、約1,800万円となっています。
- ・助成額は、令和5年度が前年比約3億円増の約17億9千万円、令和6年度も17億円を上回る見込みで、減額調整措置を上回る状況になっています。

※自治体が行う医療費助成により患者の自己負担が減額される場合、国民健康保険財政に与える影響や限られた財源の公平な配分等の観点から、負担軽減に伴い増加した医療費分の公費負担を減額調整している。全国の自治体における医療費助成の取組状況等を踏まえ、市町村の助成内容(自己負担や所得制限の有無等)を問わず、**18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にあるこどもの医療費助成に係る減額調整措置について、令和6年度から廃止した。**

※減額調整措置は、地方単独事業の医療費制度(子ども医療費助成制度、重度心身障がい者医療費助成制度、ひとり親家庭等医療費助成制度)に係る金額。



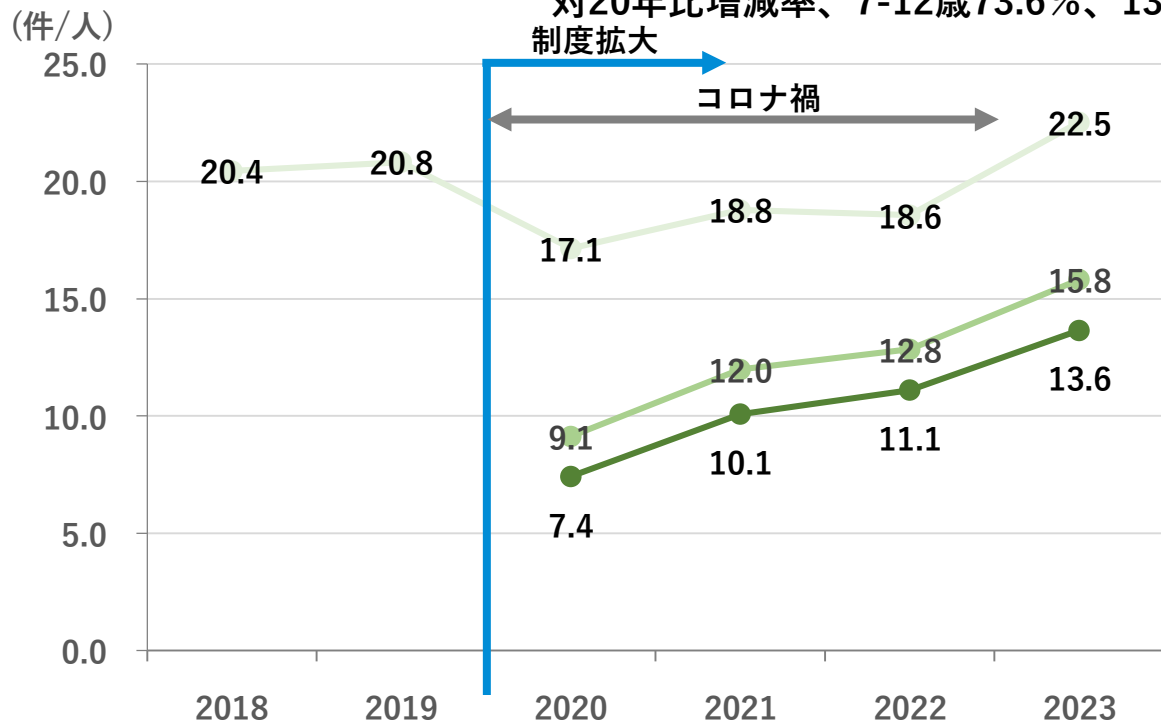
	助成額	減額調整措置
2021年	1,454,852千円	58,851千円
2022年	1,488,664千円	77,045千円
2023年	1,792,316千円	96,541千円
2024年	17億円超見込み	78,528千円

出典：宮崎市

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(5) 受給資格者当たりの医療費助成件数

- ①推移【入院・外来・調剤】・0-6歳の資格者当たりの助成件数は19年から20年に約2.8件/人減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率31.3%)
 ・7-12歳、13-15歳の資格者当たりの助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳73.6%、13-15歳83.8%)



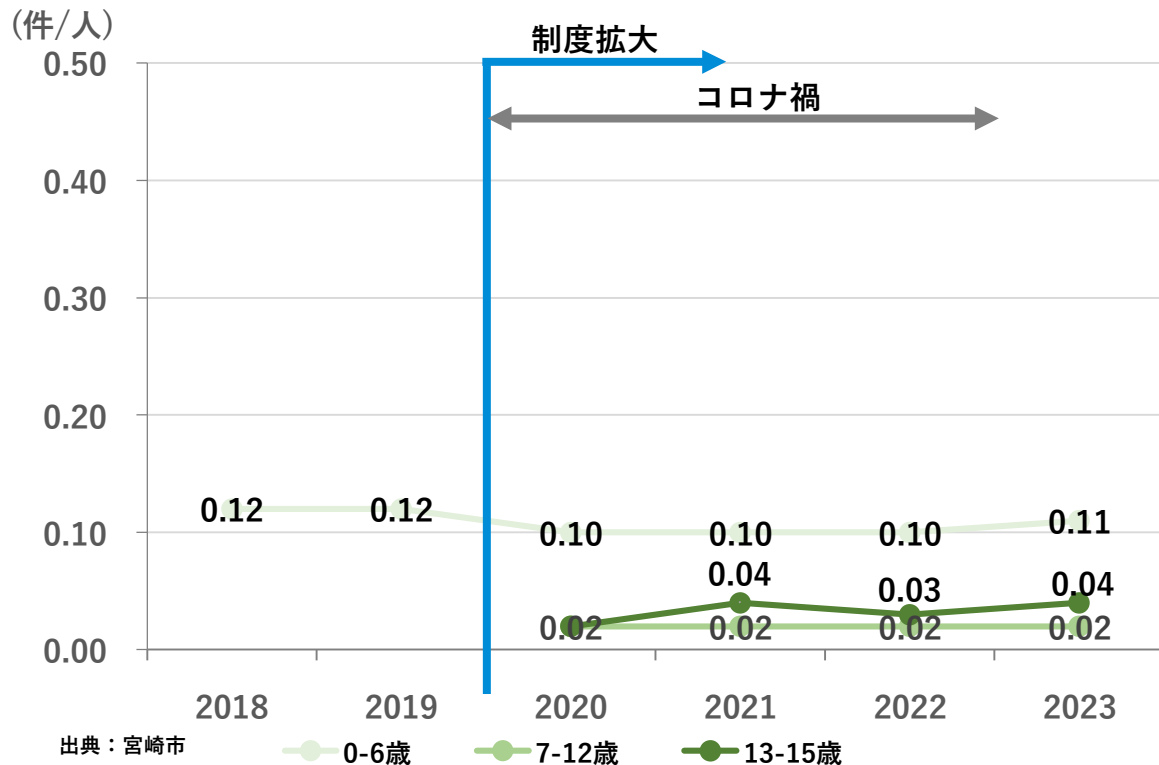
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	1.7件/人 9.9%	2.9件/人 31.9%	2.7件/人 36.5%
2022年	1.5件/人 8.8%	3.7件/人 40.7%	3.7件/人 50.0%
2023年	5.4件/人 31.6%	6.7件/人 73.6%	6.2件/人 83.8%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(5) 受給資格者当たりの医療費助成件数

②推移【入院】・0-6歳、7-12歳、13-15歳の資格者当たりの助成件数に大きな変化は見られません。



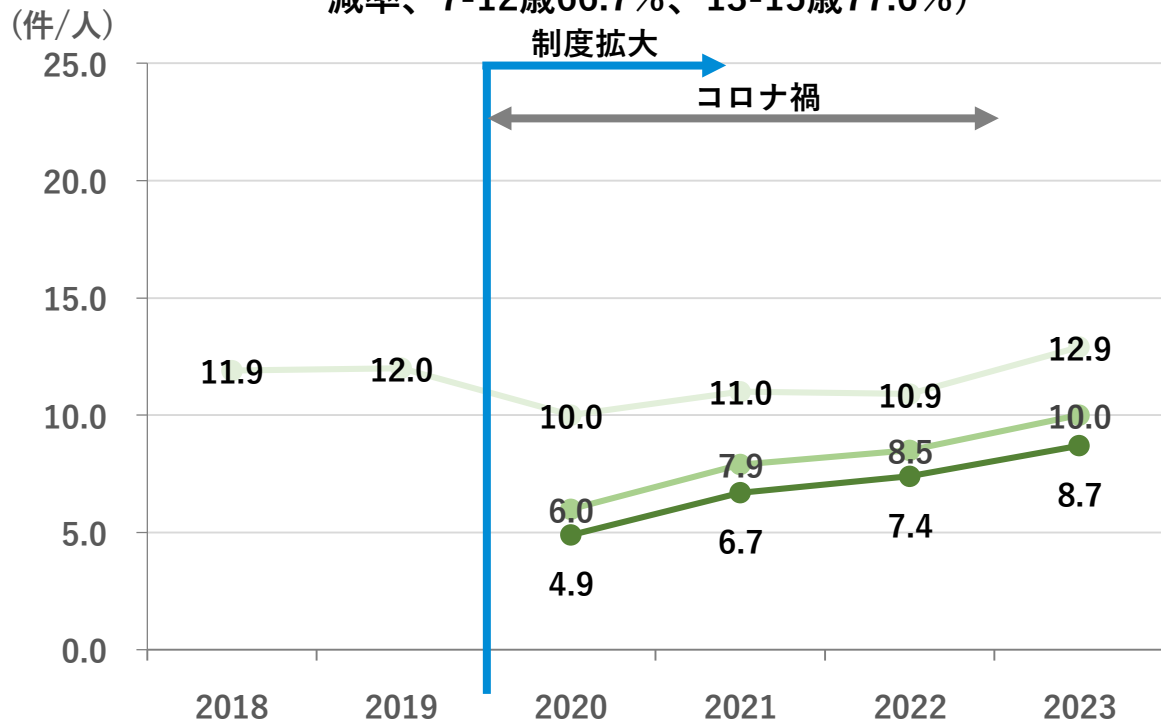
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	0件/人 0%	0件/人 0%	0.02件/人 100%
2022年	0件/人 0%	0件/人 0%	0.01件/人 50.0%
2023年	0.01件/人 10.0%	0件/人 0%	0.02件/人 100%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(5) 受給資格者当たりの医療費助成件数

- ③推移【外来】・0-6歳の資格者当たりの助成件数は19年から20年に約2.0件/人減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率は29.0%)
- ・7-12歳、13-15歳の資格者当たりの助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳66.7%、13-15歳77.6%)



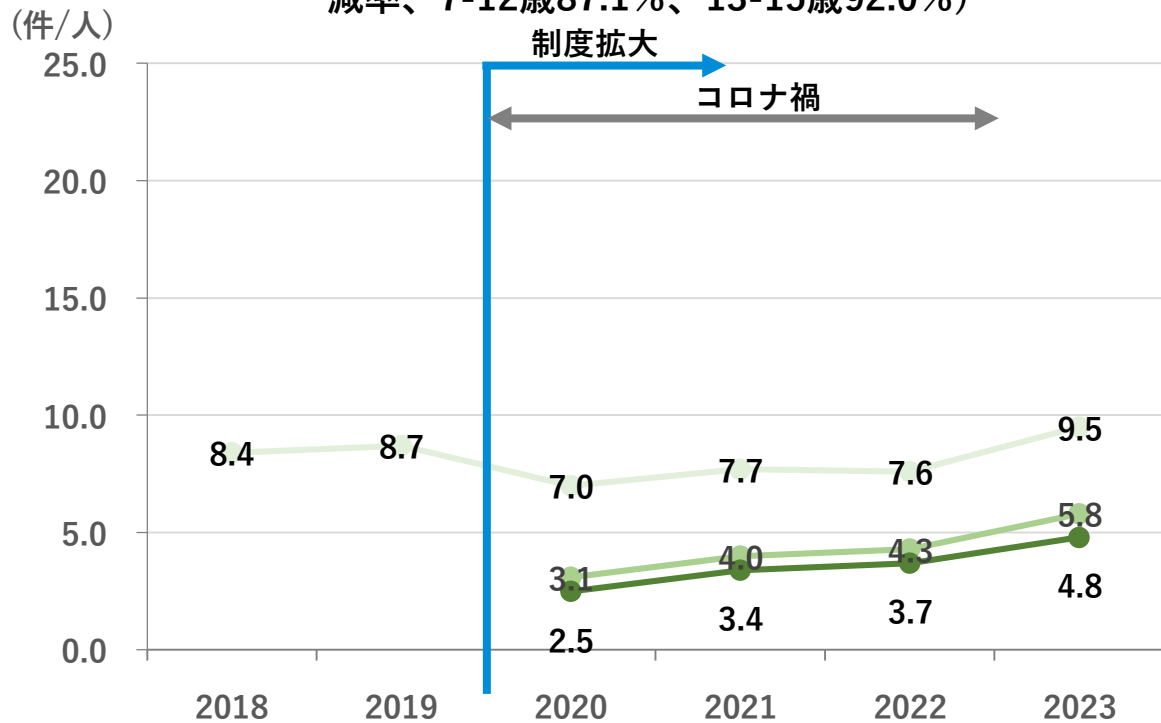
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	1.0件/人 10.0%	1.9件/人 31.7%	1.8件/人 36.7%
2022年	0.9件/人 9.0%	2.5件/人 41.7%	2.5件/人 51.0%
2023年	2.9件/人 29.0%	4.0件/人 66.7%	3.8件/人 77.6%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(5) 受給資格者当たりの医療費助成件数

- ④推移【調剤】・0-6歳の資格者当たりの助成件数は19年から20年に約1.7件/人減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率35.7%)
- ・7-12歳、13-15歳の資格者当たりの助成件数は増加傾向にあります。(23年の対20年比増減率、7-12歳87.1%、13-15歳92.0%)



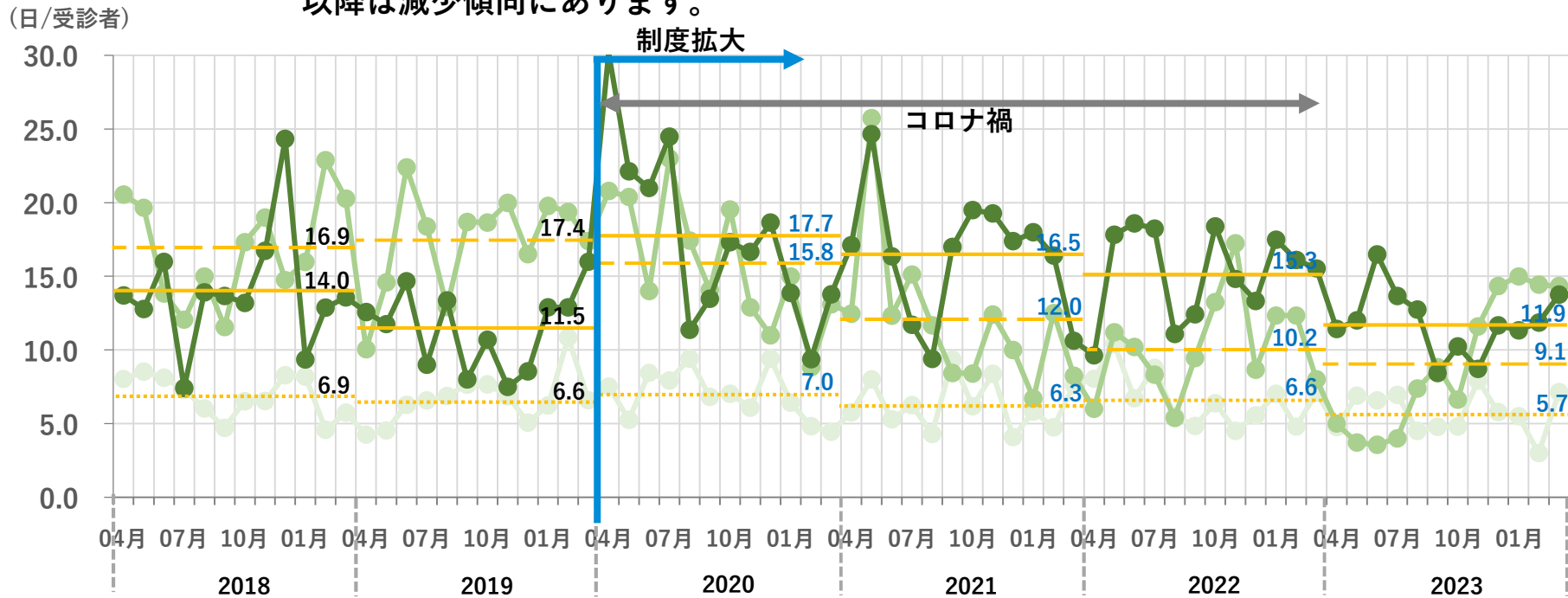
【2020年比】

対象年齢	0-6歳	7-12歳	13-15歳
2021年	0.7件/人 10.0%	0.9件/人 29.0%	0.9件/人 36.0%
2022年	0.6件/人 8.6%	1.2件/人 38.7%	1.2件/人 48.0%
2023年	2.5件/人 35.7%	2.7件/人 87.1%	2.3件/人 92.0%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(6) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・受診者当たりの日数(月平均)

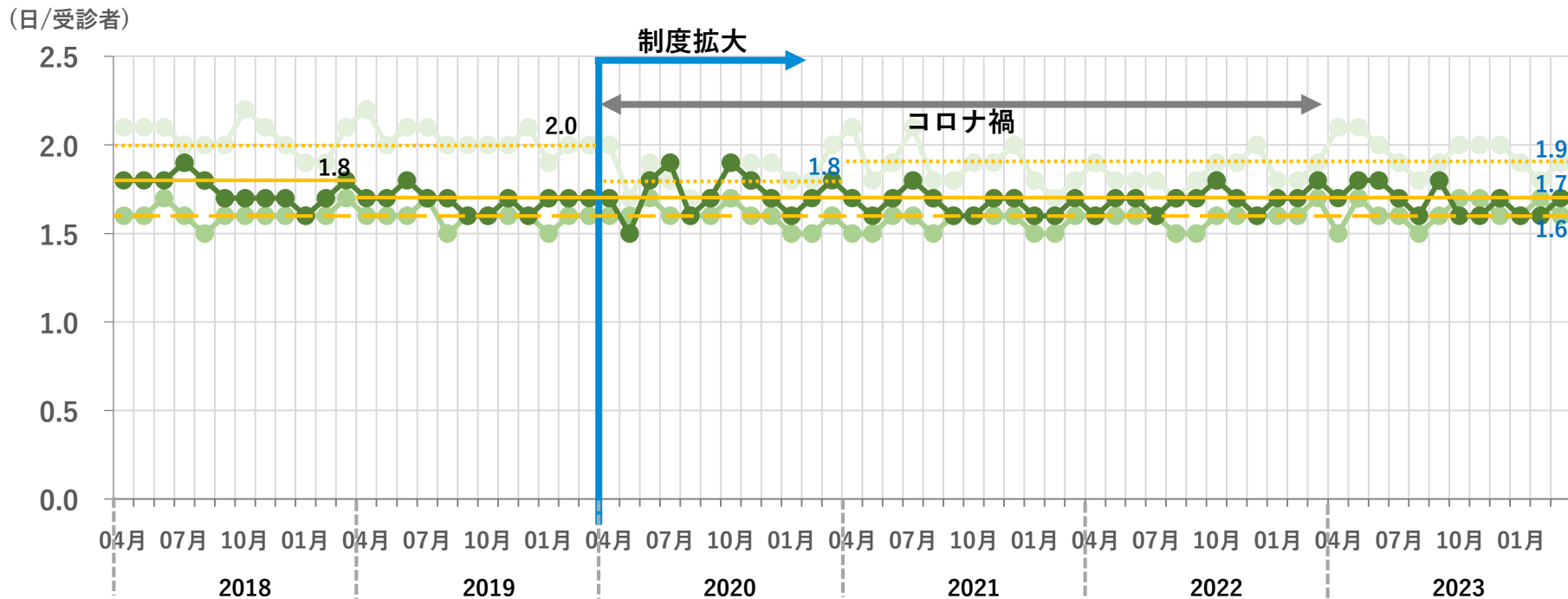
- ①推移【入院】
- ・0-6歳の受診者当たりの入院日数(月平均)に大きな変化は見られません。
 - ・7-12歳の受診者当たりの入院日数(月平均)は減少傾向にあります。
 - ・13-15歳の受診者当たりの入院日数(月平均)は19年から20年に約6.2日増加しましたが、20年以降は減少傾向にあります。



3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(6) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・受診者当たりの日数(月平均)

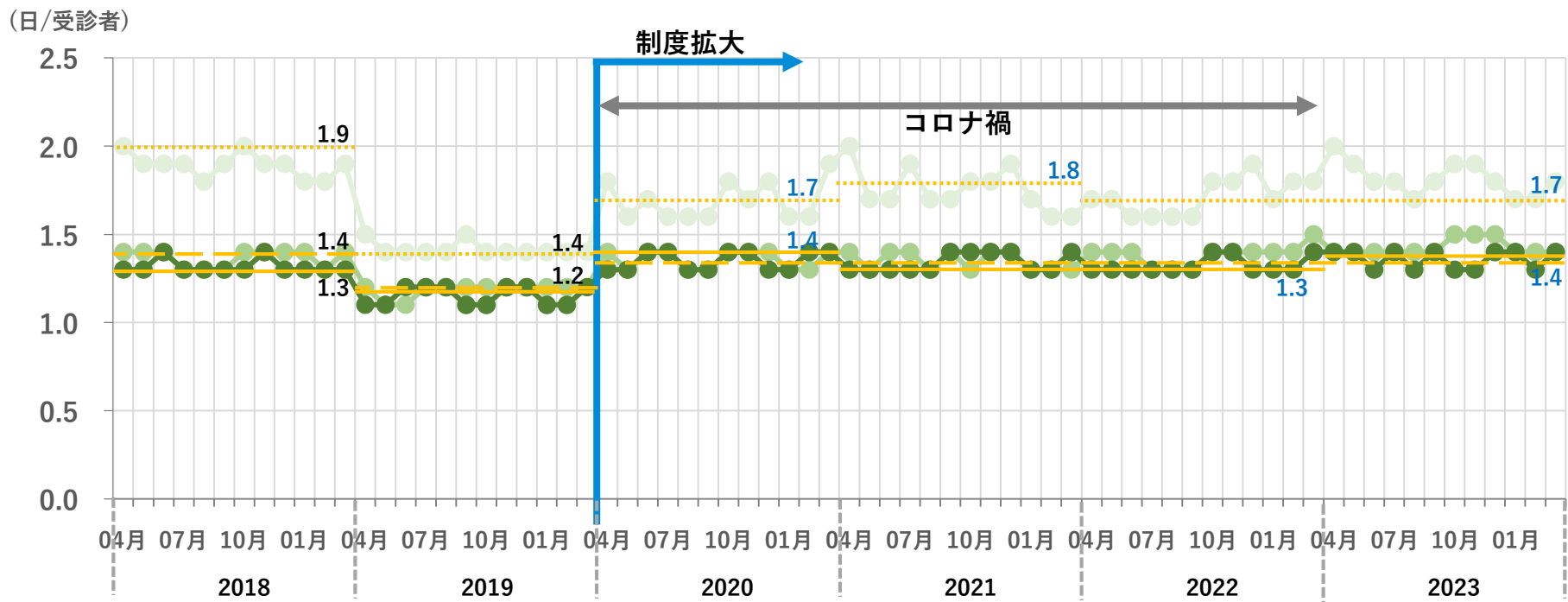
②推移【外来】・0-6歳、7-12歳、13-15歳の受診者当たりの通院日数(月平均)に大きな変化は見られません。



3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(6) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・受診者当たりの日数(月平均)

③推移【調剤】・0-6歳、7-12歳、13-15歳の受診者当たりの調剤日数(月平均)に大きな変化は見られません。



出典：宮崎市

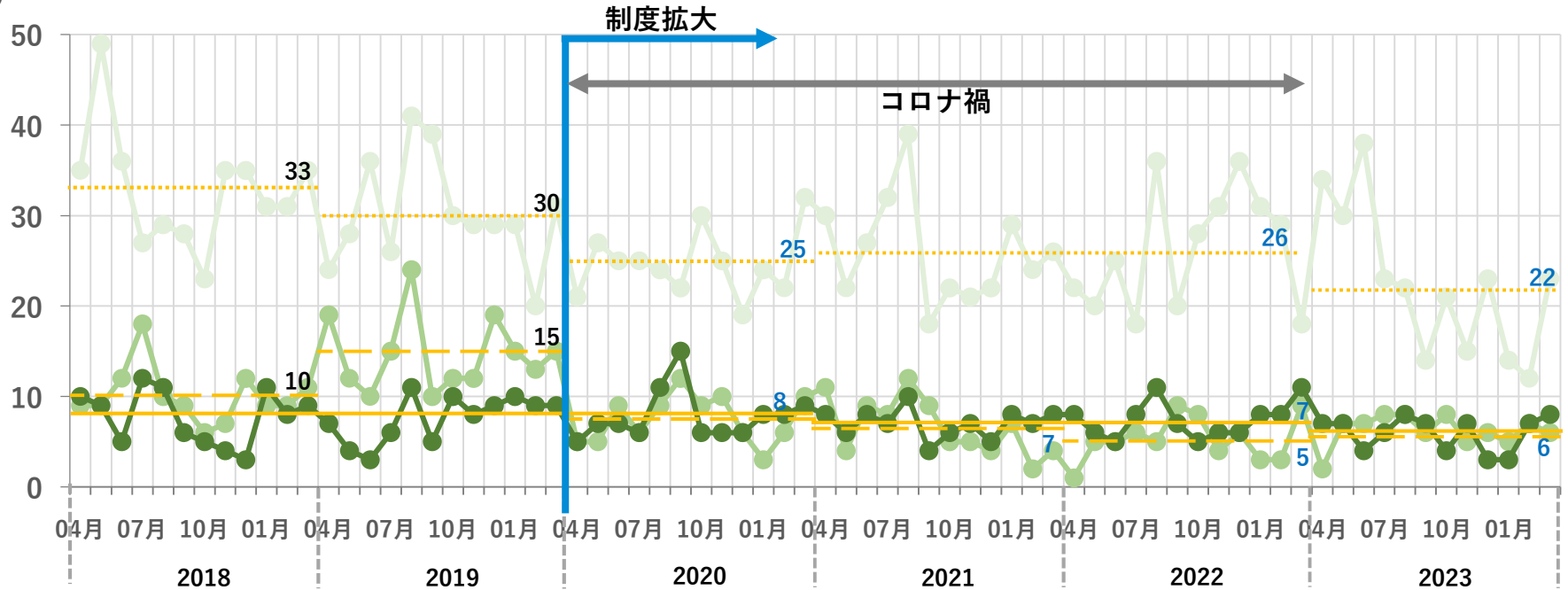
● 0-6歳 ● 7-12歳 ● 13-15歳 0-6歳平均 - - - 7-12歳平均 — 13-15歳平均

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(7) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・利用人数(月平均)

- ①推移【入院】・0-6歳の入院の利用者数(月平均)は減少傾向にあります。
- ・7-12歳、13-15歳の入院の利用者数(月平均)に大きな変化は見られません。

(人)



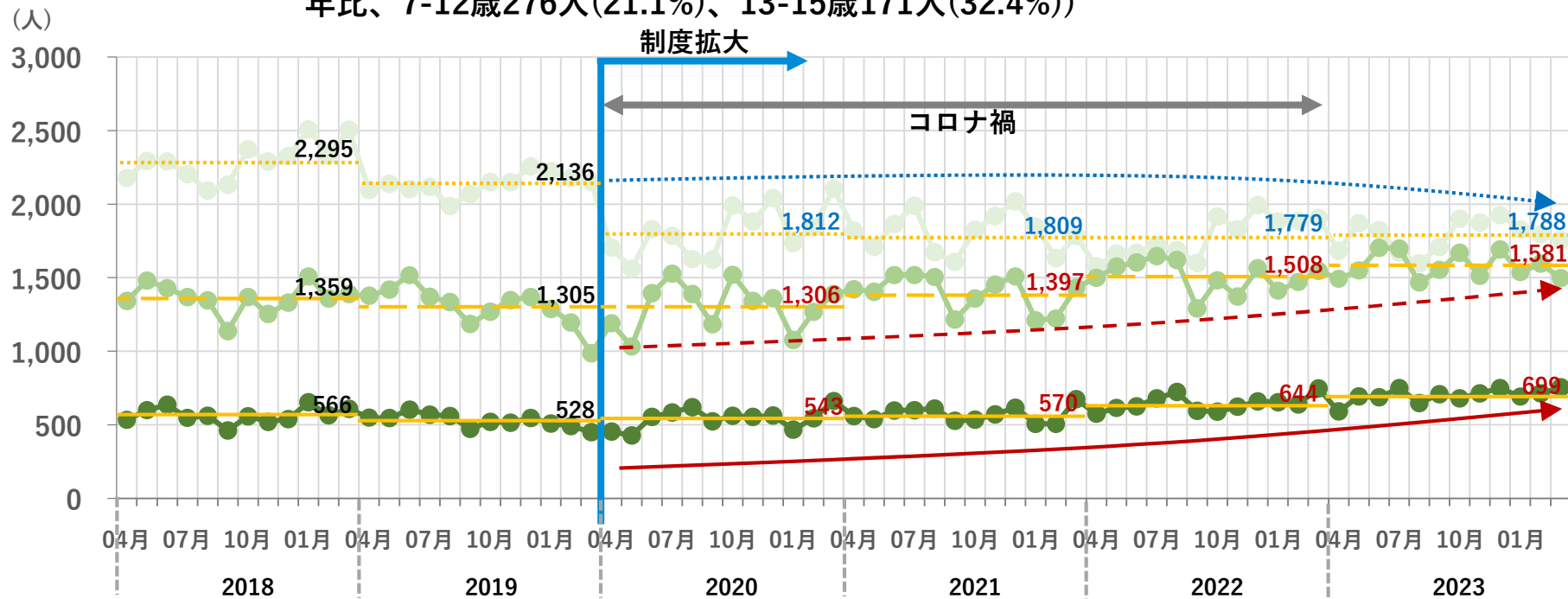
出典：宮崎市

○ 0-6歳 ● 7-12歳 ● 13-15歳 0-6歳平均 - - - 7-12歳平均 — 13-15歳平均

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(7) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・利用人数(月平均)

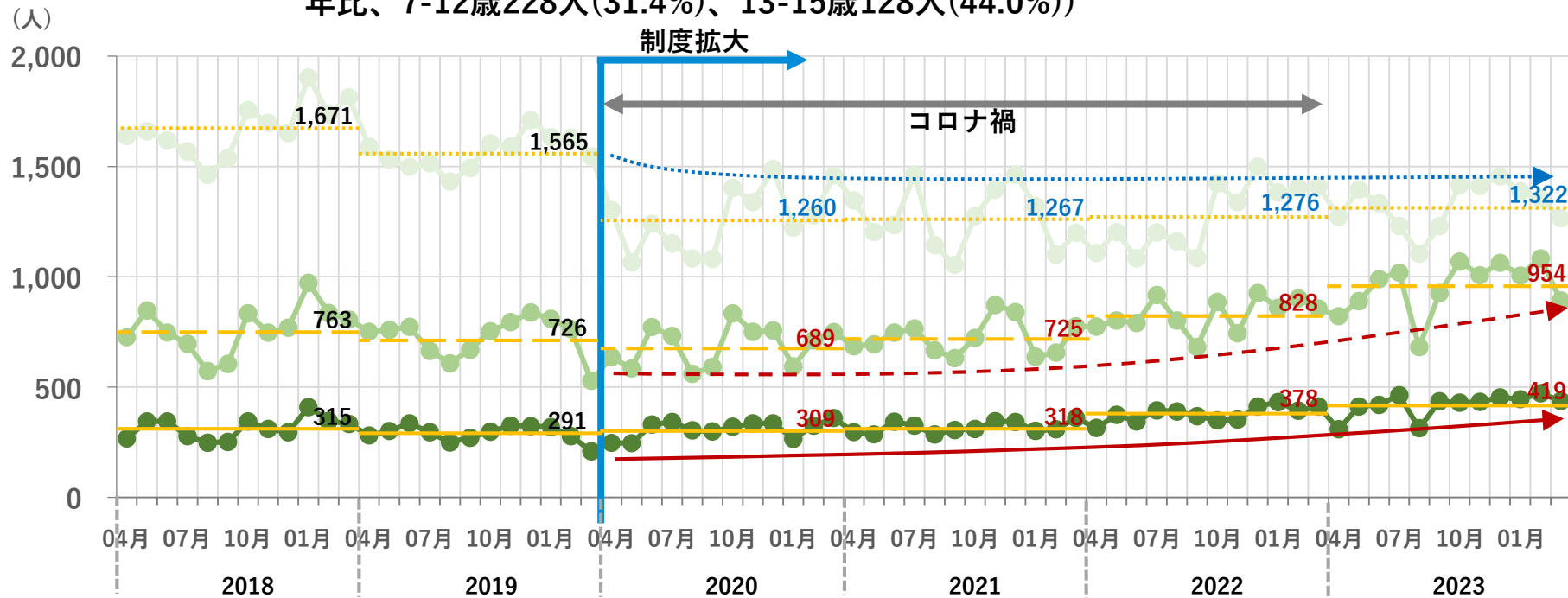
- ②推移【外来】・0-6歳の通院の利用者数(月平均)は19年から20年に324人減少し、20年以降は約1.8千人で推移しています。
- ・7-12歳、13-15歳の通院の利用者数(月平均)は20年以降増加傾向にあります。(23年の対19年比、7-12歳276人(21.1%)、13-15歳171人(32.4%))



3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(7) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・利用人数(月平均)

- ③推移【調剤】・0-6歳の調剤の利用者数(月平均)は19年から20年に305人減少し、20年以降は約1.3千人で推移しています。
- ・7-12歳、13-15歳の調剤の利用者数(月平均)は20年以降増加傾向にあります。(23年の対19年比、7-12歳228人(31.4%)、13-15歳128人(44.0%))



3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(7) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・利用人数(月平均)

④推移【入院・外来・調剤】

- ・年代別の利用人数は、入院・外来・調剤ともに年代が低いほど多い傾向にあります。
- ・0-6歳は入院・外来・調剤ともに減少傾向にあります。
- ・7-12歳、13-15歳は入院は減少傾向にありますますが、外来・調剤は増加傾向にあります。
なお、増加率は調剤の方が高くなっています。
- ・16-18歳も7-12歳、13-15歳と同様の傾向となっています。

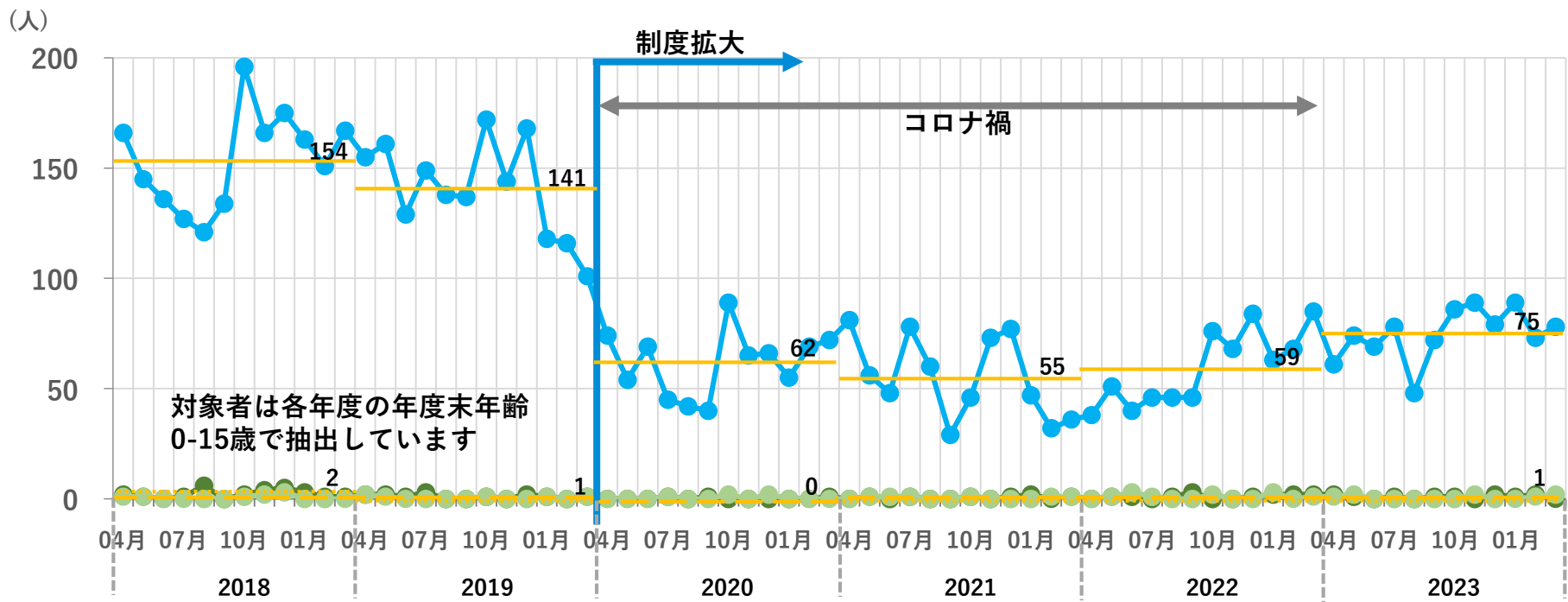
【月平均利用人数】

対象年齢		2018	2019	2020	2021	2022	2023	23年 (19年比)
0-6歳	入院	33	30	25	26	26	22	△26.7%
	外来	2,295	2,136	1,812	1,809	1,779	1,788	△16.3%
	調剤	1,671	1,565	1,260	1,267	1,276	1,322	△15.5%
7-12歳	入院	10	15	8	7	5	6	△60.0%
	外来	1,359	1,305	1,306	1,397	1,508	1,581	21.1%
	調剤	763	726	689	725	828	954	31.4%
13-15歳	入院	8	8	8	7	7	6	△25.0%
	外来	566	528	543	570	644	699	32.4%
	調剤	315	291	309	318	378	419	44.0%
16-18歳	入院	7	6	4	4	7	5	△6.7%
	外来	414	373	330	307	367	398	6.7%
	調剤	218	188	168	158	205	233	23.9%

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(8) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・重複受診・頻回受診・重複服薬

- ① **重複受診** ※第3期宮崎市保健事業実施計画の条件から抽出(同一疾患で同一診療科目の医療機関に1か月あたり4枚以上のレセプトがある者)
- ② **頻回受診** ※第3期宮崎市保健事業実施計画の条件から抽出(同一疾患で1か月以内に同一診療科目を15日以上受診している者)
- ③ **重複服薬** ※第3期宮崎市保健事業実施計画の条件から抽出(処方箋発行医療機関が異なり、同一薬効分類番号の薬剤がそれぞれの保険薬局で算定されている者)



出典：宮崎市

● 重複受診 ● 頻回受診 ● 重複服薬 重複受診平均 - - - 頻回受診平均 — 重複服薬平均

3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(8) 制度拡大(2020年～)前後の受診行動の変化(宮崎市国保分)・重複受診・頻回受診・重複服薬

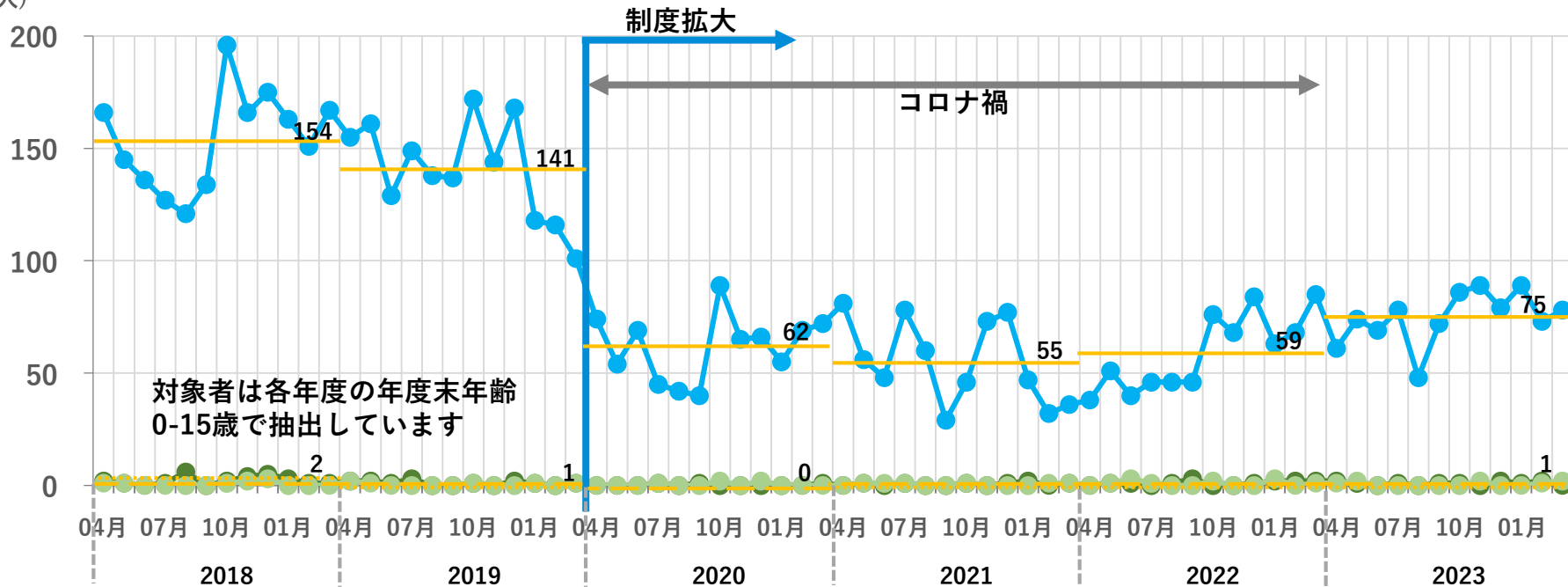
- ・ 重複受診、頻回受診の該当者は月平均1名程度で推移しています。
- ・ 重複服薬の該当者はコロナ禍以降、減少傾向にありましたが、21年を底に増加傾向に転じています。

※①の疾病例「接触皮膚炎」「アトピー性皮膚炎」「皮膚炎及び湿疹」「急性咽喉炎及び急性扁桃炎」「アレルギー性鼻炎」「急性副鼻腔炎」など

※②の疾病例「アレルギー性鼻炎」「喘息」など

※③の疾病例「インフルエンザ」「急性咽喉炎及び急性扁桃炎」「アレルギー性鼻炎」「アトピー性皮膚炎」など

(人)



3 宮崎市子ども医療費助成制度の現況等

(9) レセプト当たりの自己負担した額(宮崎市国保分)

① 推移【入院・外来・調剤】

- ・制度拡大前(19年以前)では、年代別の自己負担した額に大きな差は見られない、もしくは年代が高いほど高額な傾向にあります。
- ・制度拡大後(20年以降)では、15歳年度末までは自己負担した額が安価に抑えられています。

【レセプト当たりの自己負担した額※の平均(括弧内は最大値)】

対象年齢		2018	2019	2020	2021	2022	2023
0-6歳	入院						
	外来						
	調剤						
7-12歳	入院	45,713(281,277)	35,343(164,664)				
	外来	1,707 (40,872)	1,702 (35,097)				
	調剤	1,039 (57,600)	1,022 (15,453)				
13-15歳	入院	47,584(161,274)	32,554(183,009)				
	外来	1,725 (28,454)	1,755 (43,143)				
	調剤	961 (10,338)	1,030 (11,652)				
16-18歳	入院	52,011(405,048)	32,634(180,420)	43,538(323,586)	58,183 (75,661)	46,681 (267,363)	44,931(127,794)
	外来	1,822 (35,400)	1,771 (57,600)	1,871 (29,766)	1,935 (61,923)	1,943 (77,277)	2,268(111,525)
	調剤	1,120 (17,586)	1,122 (35,400)	1,237 (35,400)	1,241 (15,525)	1,134 (200,904)	1,356(138,456)

赤マーカー部分は宮崎市の子ども医療費助成制度の対象です。
自己負担した額は以下の表のとおりです。

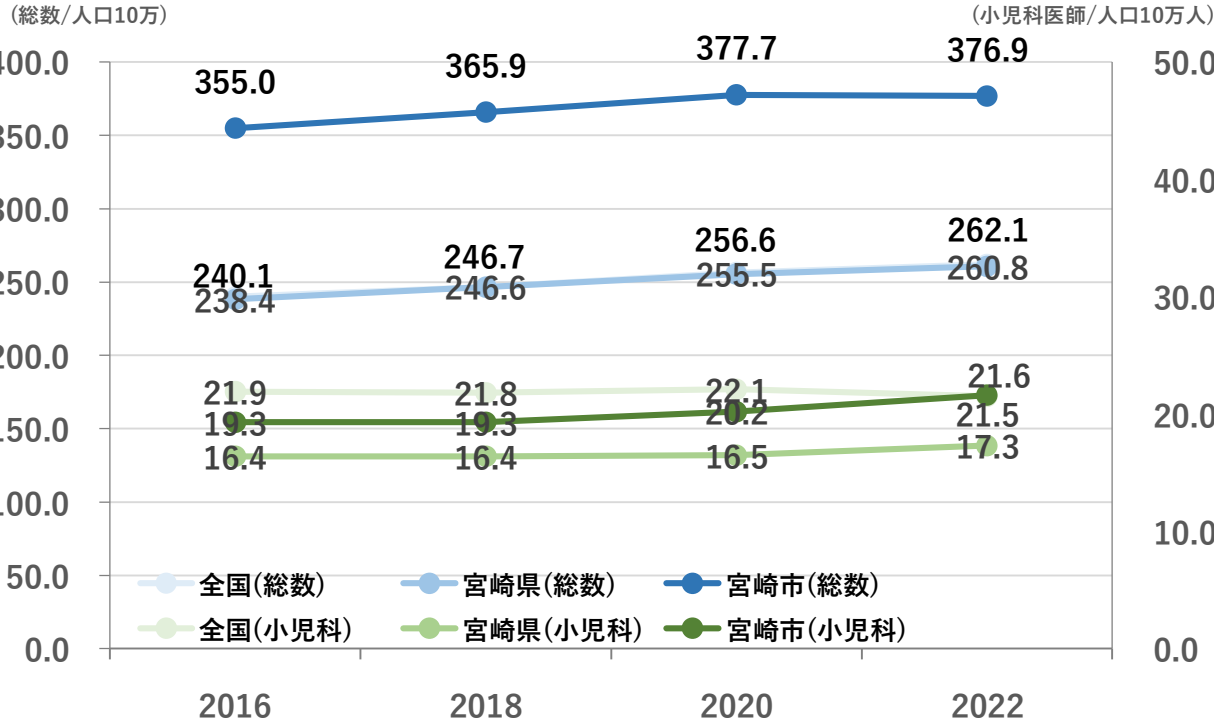
対象年齢	入院	外来(通院)	調剤
就学前(0-6歳年度末)	無料	無料	無料
小中学生(7-15歳年度末)	無料	1医療機関あたり 月額200円	無料

4 宮崎市の医療資源の現況等

(1) 人口10万対医療施設従事者

①人口10万対医療施設従事医師数の年次推移

・人口10万対医療施設従事医師数は、医師全体では宮崎市が全国よりも高いですが、小児科では全国が宮崎市よりも高くなっています。



【2016年比】

	全国(総数)	宮崎市(総数)	全国(小児科)	宮崎市(小児科)
2018年	6.6 2.7%	10.9 3.1%	△0.1 △0.5%	0.0 0.0%
2020年	16.5 6.9%	22.7 6.4%	0.2 0.9%	0.9 4.7%
2022年	22.0 9.2%	21.9 6.2%	△0.4 △1.8%	2.3 11.9%

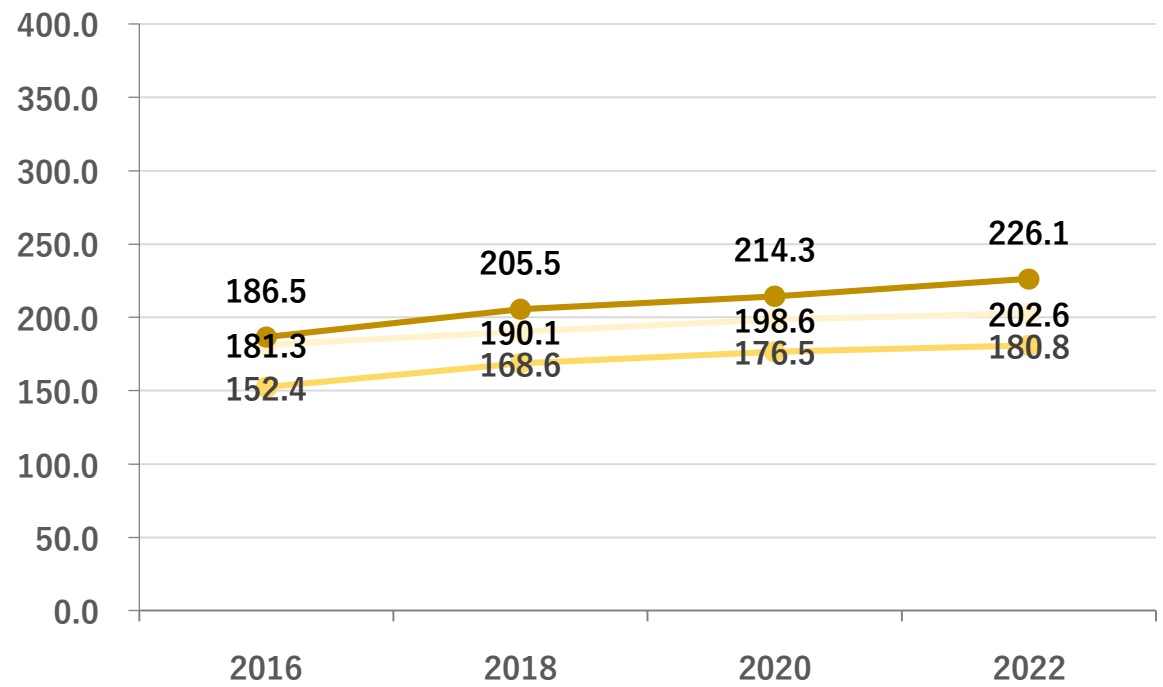
4 宮崎市の医療資源の現況等

(1) 人口10万対医療施設従事者

②人口10万対薬局・医療施設従事薬剤師数の年次推移

・人口10万対薬局・医療施設従事薬剤師数、増加率ともに宮崎市が全国よりも高い状態で推移しています。

(総数/人口10万)



【2016年比】

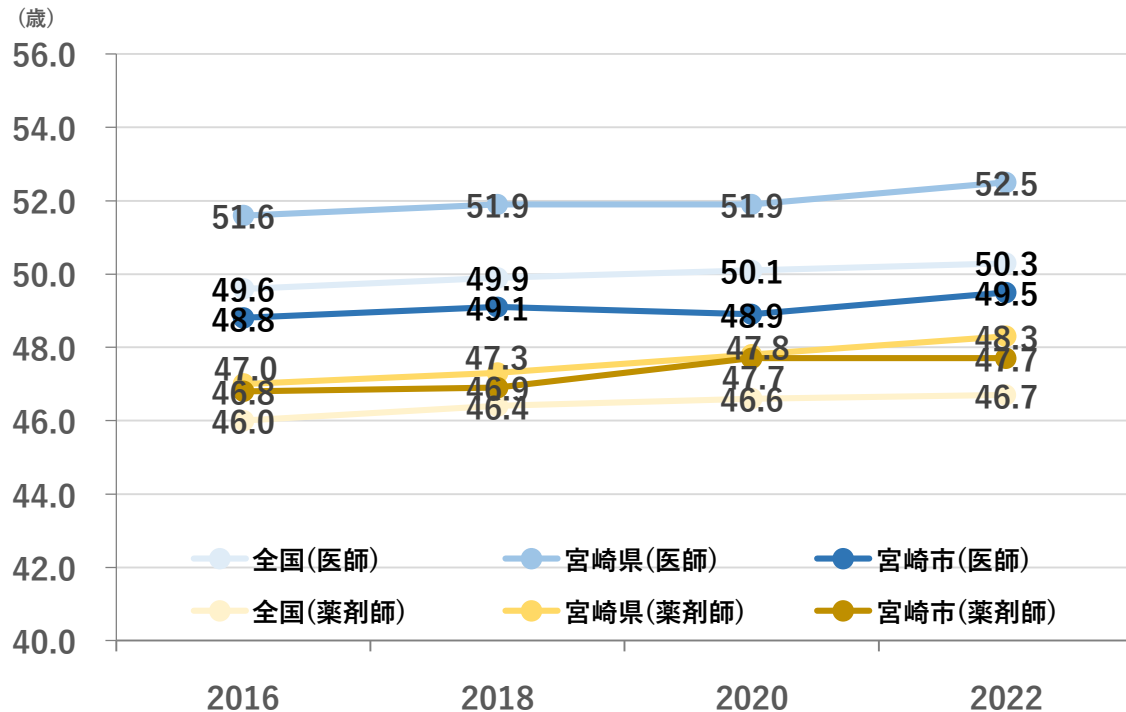
	全国	宮崎県	宮崎市
2018年	8.8 4.9%	16.2 10.6%	19.0 10.2%
2020年	17.3 9.5%	24.1 15.8%	27.8 14.9%
2022年	21.3 11.7%	28.4 18.6%	39.6 21.2%

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

4 宮崎市の医療資源の現況等

(2) 医師、薬剤師の平均年齢

- ・ 医師、薬剤師の平均年齢は全国同様、増会傾向にあります。
- ・ 宮崎市においては、医師は全国よりも約1歳低い、薬剤師は全国よりも約1歳高い状態で推移しています。



【2016年比】

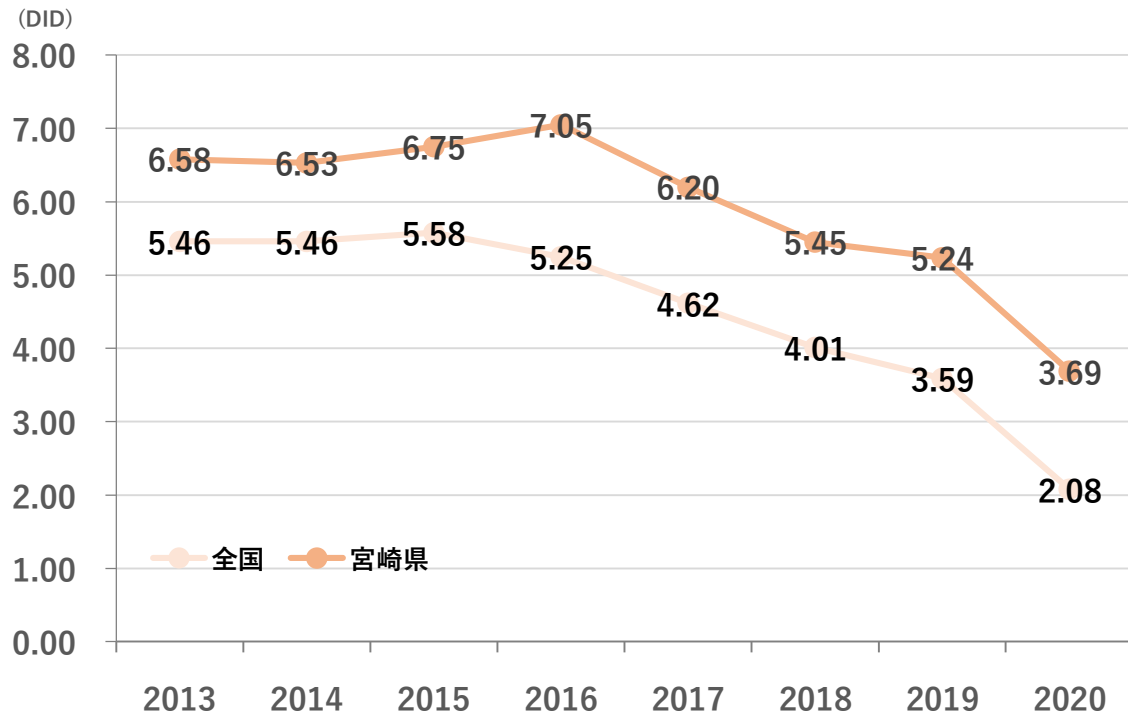
	全国 (医師)	宮崎県 (医師)	宮崎市 (医師)
2018年	0.3 0.6%	0.3 0.6%	0.3 0.6%
2020年	0.5 1.0%	0.3 0.6%	0.1 0.2%
2022年	0.7 1.4%	0.9 1.7%	0.7 1.4%
	全国 (薬剤師)	宮崎県 (薬剤師)	宮崎市 (薬剤師)
2018年	0.4 0.9%	0.3 0.6%	0.1 0.2%
2020年	0.6 1.3%	0.8 0.7%	0.9 1.9%
2022年	0.7 1.5%	0.7 1.5%	0.9 1.9%

5 その他

(1) 抗菌薬使用状況 (DID)

※抽出条件：第3世代セファロスポリン系の経口抗菌薬使用量、年齢「15歳未満」、医科・歯科「医科」、院内・院外「院内、院外」、病床数「20床未満、20-199床、200-499床、500床以上」
 ※DID(DDD per 1,000 inhabitants per day)：人口や抗菌薬毎の使用量の差を補正するため、抗菌薬の使用量を1000住民・1日あたりの標準的な使用量で指標化したもの。

- ・ 抗菌薬使用状況(DID)は全国が16年、本県が17年から減少傾向にあります。
- ・ 宮崎県の抗菌薬減少率は全国よりも緩やかなものとなっています。



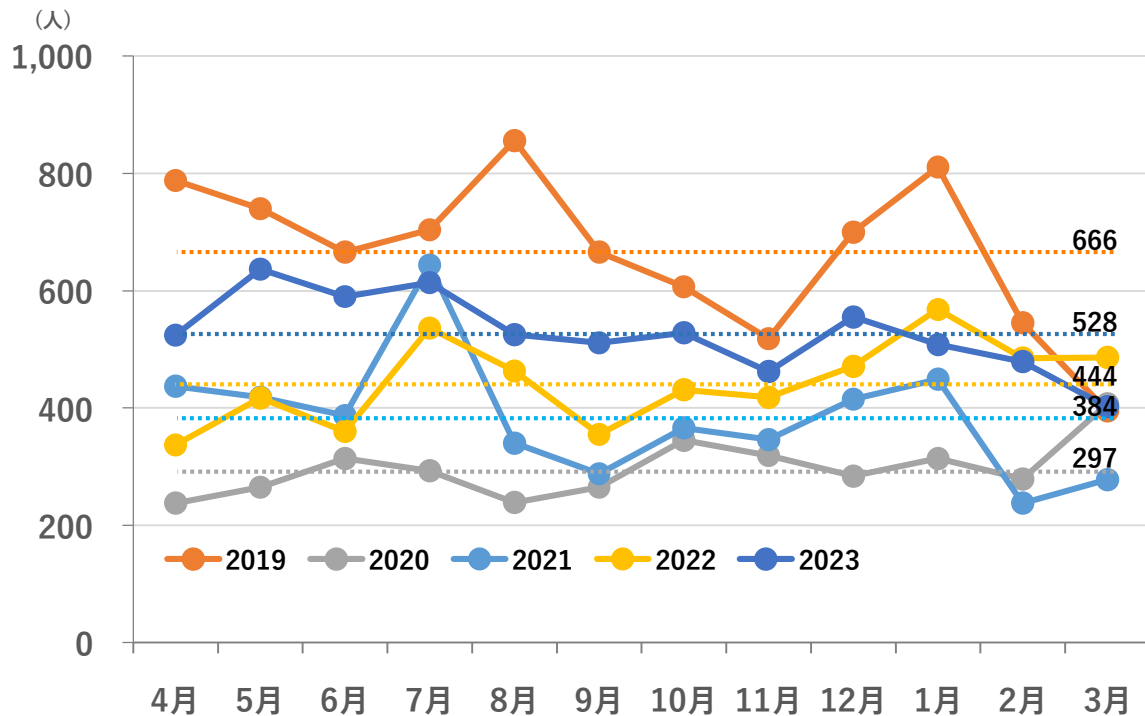
【2013年比】

	全国	宮崎県	DID 全国順位
2014年	0.00 0.0%	△0.05 △0.8%	7-スト10
2015年	0.12 2.2%	0.17 2.6%	7-スト8
2016年	△0.21 △3.8%	0.47 7.1%	7-スト5
2017年	△0.84 △15.4%	△0.38 △5.8%	7-スト5
2018年	△1.45 △26.6%	△1.13 △17.2%	7-スト3
2019年	△1.87 △34.2%	△1.34 △20.4%	7-スト2
2020年	△3.38 △61.9%	△2.89 △43.9%	7-スト2

5 その他

(2) 宮崎市夜間急病センター(小児科)

- ・夜間急病センター(小児科)の利用者数は、19年から20年にかけて減少しましたが、20年以降は増加傾向にあります。



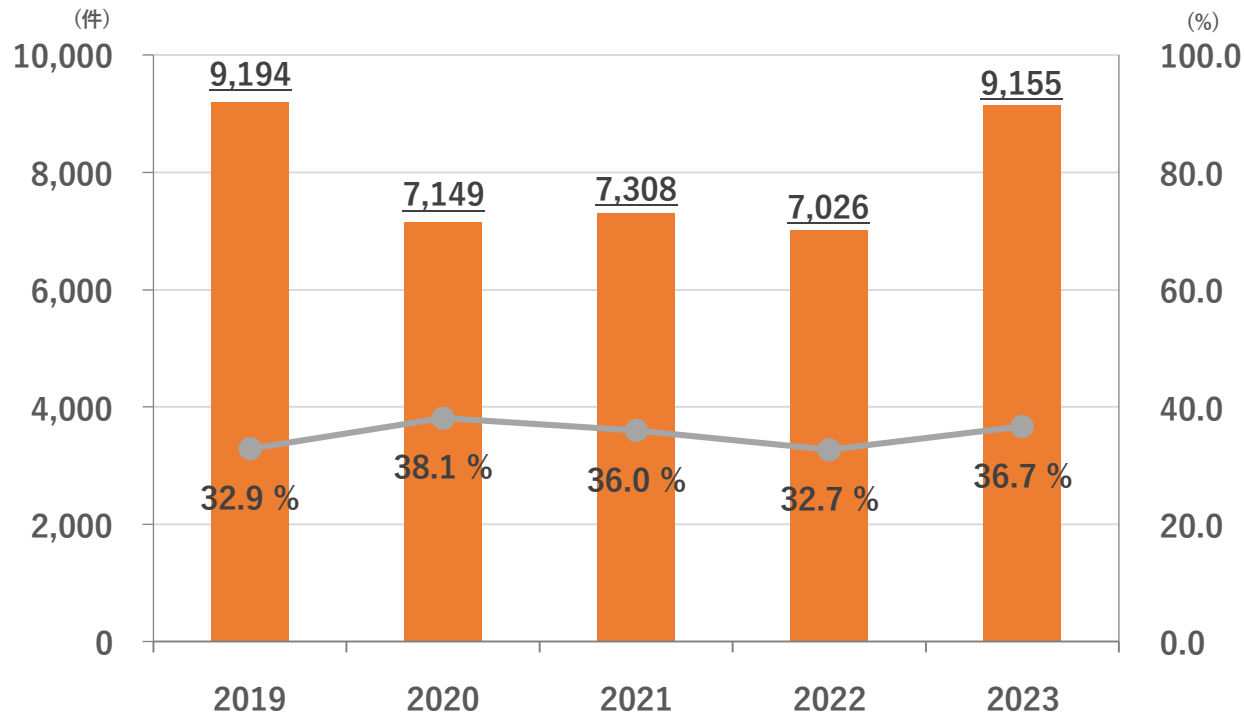
【括弧内は2019年差】

	年間実績	平均
2019年	7,996人	666人
2020年	3,562人 (△4,434人)	297人 (△370人)
2021年	4,606人 (△3,390人)	384人 (△222人)
2022年	5,327人 (△2,669人)	444人 (138人)
2023年	6,335人 (△1,661人)	528人 (△138人)

5 その他

(3) 宮崎県子ども救急医療電話相談(#8000)

- ・ #8000の利用状況は、19年から20年に減少(△2,045件(△22.2%))し、その後7千件で推移していましたが、22年から23年に増加(+2,129件(+30.3%))しています。
- ・ 医療機関受診を勧めた割合は、30%台で推移しています。



【括弧内は2019年差】

Year	年間実績	医療機関受診を勧めた割合
2019年	9,194件	32.9%
2020年	7,149件 (△2,045件)	38.1% (5.2ポイント)
2021年	7,308件 (△1,886件)	36.7% (3.1ポイント)
2022年	7,026件 (△2,168件)	32.7% (△0.2ポイント)
2023年	9,155件 (△39人)	36.7% (3.8ポイント)

出典：宮崎市保健医療課調べ

相談件数 ● 医療機関受診を勧めた割合